

野菜・果物の消費行動に関する調査結果  
～ 2009年調査～

平成21年10月

社団法人 JA総合研究所



## はじめに

リーマン・ショック後の景気の低迷から強まる“節約志向”。

毎日の食事に欠かせない野菜や食生活に彩を添える果物の消費行動にどのような影響がでているのであろうか。

当研究所では、「野菜・果物の消費行動に関する調査～2009年調査～」を平成21年7月に実施し、野菜や果物の喫食頻度・量に対する満足度をはじめ、青果物の消費行動に関するデータをとりまとめた。

本調査報告書が、生産者をはじめ青果物の流通・販売にかかわる多くの方々にとって販売戦略の構築の参考になれば幸いである。

平成21年10月

社団法人 J A総合研究所

# 調査の概要

■調査方法	インターネットリサーチ			
■調査地域	全 国			
■調査主体	社団法人 JA総合研究所			
■実施機関	株式会社 インテージ			
■調査日時	2009年7月23日(木)～7月28日(火)			
■調査対象	全国の主婦・単身者男女			
■有効回答者数	インテージネットモニター n=1,286 <span style="float:right">単位:人(構成比)</span>			
	合 計	主婦	単身女性	単身男性
	20代以下 158( 12.3)	59( 6.5)	55( 29.1)	44( 24.0)
	30代 241( 18.7)	185( 20.2)	32( 16.9)	24( 13.1)
	40代 363( 28.2)	312( 34.1)	26( 13.8)	25( 13.7)
	50代 273( 21.2)	218( 23.9)	30( 15.9)	25( 13.7)
	60代 146( 11.4)	90( 9.8)	24( 12.7)	32( 17.5)
	70代以上 105( 8.2)	50( 5.5)	22( 11.6)	33( 18.0)
	TOTAL 1,286( 100) ( 100)	914( 100) ( 71.1)	189( 100) ( 14.7)	183( 100) ( 14.2)

## 調査項目

ページ

はじめに	
調査の概要	
調査結果のまとめ	1
調査結果の概要	4
1. 野菜や果物は好き？ 嫌い？	4
2. 野菜や果物をよく食べる方・食べない方？ 喫食の感度は？	5
3. 野菜や果物を食べる頻度は？	6
4. 野菜・果物を食べる頻度や量に対する満足度は？	8
5. 野菜や果物をもっと食べるようになる“きっかけ”は？	8
6. 「野菜不足」を感じる程度は？	10
6-1. 「野菜は不足していない」と思う理由は？	11
6-2. 「野菜は不足している」と思う理由は？	12
6-3. 「野菜不足」を解消したい？	13
7. 食料品の買い物の回数は？	14
8. 野菜・果物の買い物1回当たりの購入金額は？	15
8-1. 野菜・果物の週当たりのおよその購入金額は？	16
9. 食料品等の買い物の予算を決めている？	17
9-1. 食料品等の買い物の予算を増やした？ 減らした？	18
9-2. 食料品等の買い物の予算のやり繰りは？	19
10. 野菜や果物をどこで購入しているか？	20
10-1. 野菜や果物をその購入先から買う理由は？	22
11. 野菜や果物の購入に際して重視している点は？	25
11-1. 野菜や果物の加工品の購入に際して重視している点は？	26
12. 1日の調理で使用した野菜は？ 買置きのある野菜は？	28
12-1. 1日の調理で使用した加工野菜・買置きのある加工野菜は？	30
12-2. 使用した野菜、買置きのある生鮮野菜のアイテム数は？	31
13. 野菜を栽培している？	32
14. 企業が生産する野菜に対する見方は？	34
15. 食卓に果物がある風景に対するイメージは？ (主婦のみ)	35

# 調査結果のまとめ

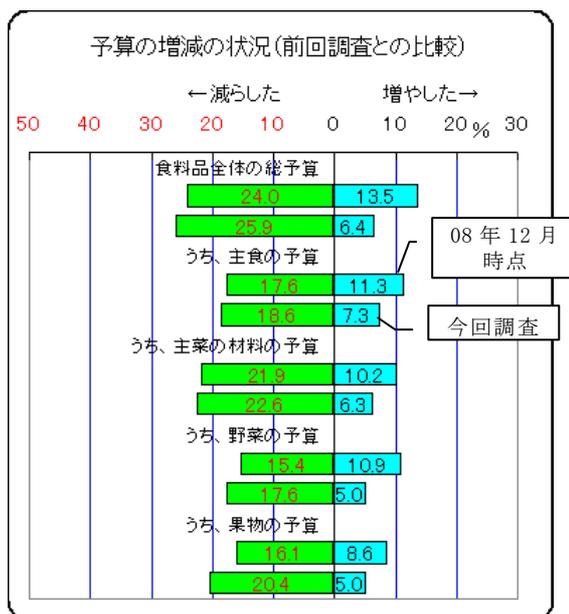
## 1. 「野菜」「果物」にも節約の波、「価格重視」の姿勢強まる

食料品等の買い物の予算を決めている人(n=560 全体の 43.5%)に、2009年1月頃と比べた予算の変化(注1を聞いたところ、25.9%がここ半年で「食料品全体の総予算」を「減らした」と回答しており、「増やした」(6.4%)を大きく上回る結果となった。

食料品の内訳を見ると、「減らした」が一番多かったのは「主菜の材料(肉・魚・卵等)」(22.6%)で、次いで「果物」(20.4%)・「主食(米・パン・めん等)」(18.6%)・「野菜」(17.6%)の順となった。

予算の増減の状況を08年12月時点で聞いた1年間の変化(注2と比較すると、食料品全体・各品目とも「増やした」がほぼ半減し、「減らした」が数ポイントずつ増加した。特に、「野菜」「果物」では「減らした」が2.2ポイント・4.3ポイント増加しており、「主食」や「主菜の材料」のそれを上回った。

野菜や果物を増やしたい気持ちは依然としてある(注3ものの、「節約志向」の波は「野菜」「果物」に対しても徐々に強まっている。



また、日頃、野菜を購入している人(n=1,248)に、野菜を購入する際に重視する点を聞いたところ、①鮮度がよいこと(69.0%) ②販売単価が安いものであること(58.6%) ③国産品であること(42.1%) ④旬のものであること(39.5%) ⑤特売で安いこと(36.8%)の順となり、前回の調査(注4の順(①鮮度 ②国産 ③販売単価 ④旬 ⑤ちょうど良い量)と比べて、「国産」と「販売単価」の順位が入れ替わり、「ちょうど良い量」に代わって「特売」がランク入りする結果となった。

前回の調査は、中国産ギョーザによる中毒事件の直後で国産志向が強まっている時期と重なったが、リーマン・ショック後の景気の低迷もあり、青果物の“国産志向”は相対的に後退し、一方で“価格重視”の姿勢が強まっている。

注1)09年1月→09年7月間の変化。「主食」は「お米」「お米以外の主食」の回答内容から再集計したもの。

注2)08年12月「果物の消費行動に関する調査」07年12月→08年12月間の変化

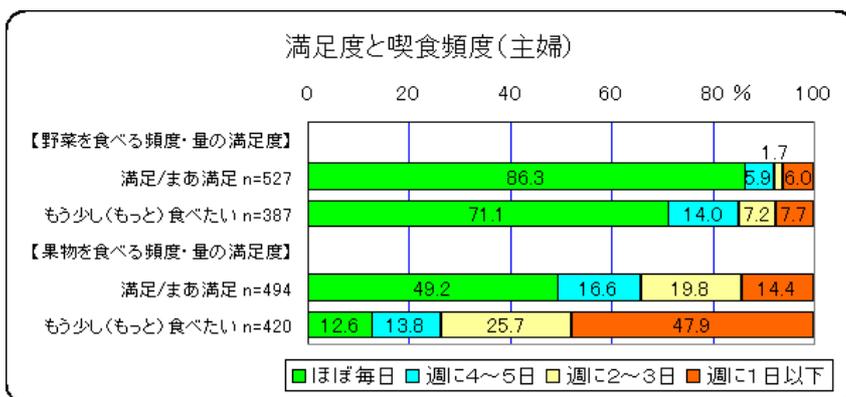
注3)次項参照

注4)08年4月「野菜の消費行動に関する調査」

## 2. 野菜や果物を食べる頻度・量の満足度、半数近くが「もう少し(もっと)食べたい」

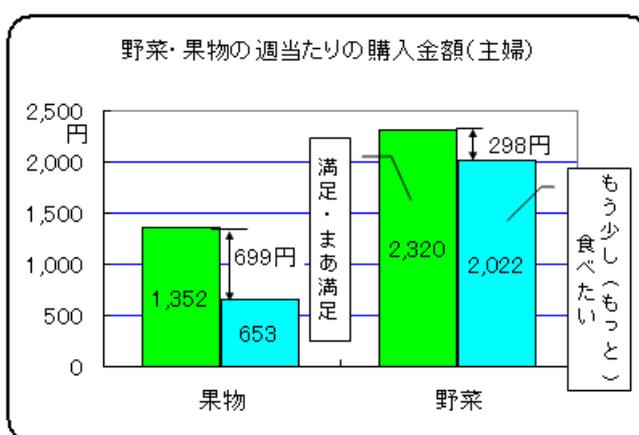
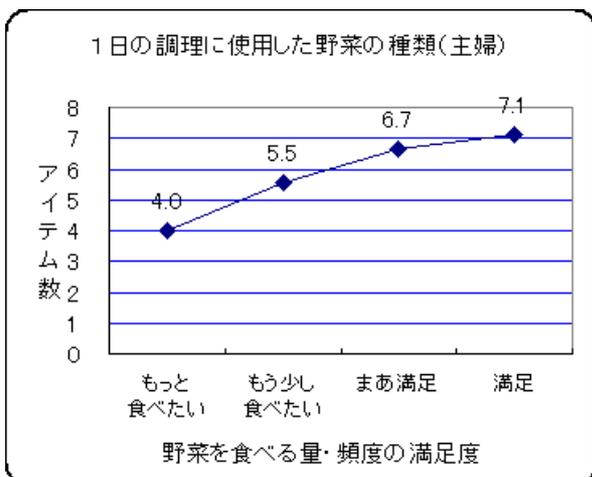
野菜・果物を食べる頻度・量に対する満足度を聞いたところ、半数近い人(野菜 46.4%・果物 49.7%)が野菜・果物を「もう少し食べたい/食べる必要がある」「もっと食べたい/食べる必要がある」と回答している。

主婦のデータで喫食頻度との関係を見ると、当然のことながら「満足/まあ満足」の方が喫食頻度が高い人が多くなるが、「ほぼ毎日」「週に4~5日」「週に2~3日」の合計を見ると、野菜では94%程度で並んでいるのに対して、嗜好品としての性格が強い果物では85.6%・52.1%と30ポイント以上の差がでている。果物を「もう少し(もっと)食べたい」気持ちは喫食頻度の差によるところが大きいと言える。



一方、野菜については喫食頻度以上に家庭で食べている野菜のアイテム数の差が満足度の違いにつながっている。1日の調理に使用した野菜のアイテム数(注5を見ると、「もっと食べたい/食べる必要がある」人と「満足している」人では、使用した野菜の種類に倍近い開きがでている。

野菜・果物の週当たりの購入金額(注6を満足度別に主婦の平均値と比較すると、野菜では約300円(298円)、果物では約700円(699円)、「満足/まあ満足」が「もう少し(もっと)食べたい」を上回っており、喫食頻度の差が大きい分、果物での金額差が大きい。



注5) 設問では46種類の野菜を提示し、1日の調理に使用した物を聞いた。  
 注6) 週当たりの購入金額(10円単位に四捨五入)=週当たりの買い物回数×1回当たり購入金額で算出した。

### 3. 野菜や果物をもっと食べるようになる“きっかけ”

それでは、どういふ“きっかけ”があれば野菜や果物を食べる量が増えるのか？ 野菜・果物を「もう少し(もっと)食べたい/食べる必要がある」と回答した人に聞いたところ、野菜・果物とも「価格が安くなれば」との回答が一番多い結果(野菜 53.3%、果物 73.2%)となった。「価格重視」の姿勢が強まる中で、安さを求める消費者への対応が迫られる。しかし、安いものを消費者に提供するとしても、何故その安さが実現できたのか、生産側・流通側の努力をきちんと消費者に伝えていく等、安易な低価格路線にはまりこまないよう留意が必要である。

安さ以外にも、「もう少し(もっと)食べたい」気持ちを消費行動につなげるヒントはある。

野菜では「手間をかけずにいっぱい野菜を食べられるレシピがわかれば」(51.9%)が「価格が安くなれば」(53.3%)とほぼ拮抗しており、主婦では「手間をかけずに…」を挙げた人(58.7%)が「価格が安く…」(56.3%)を上回る。20-30代の主婦に限れば「手間をかけずに…」は 65.1%と更に割合は増す。また、「自分の食習慣が変われば」(35.5%)も“きっかけ”の3番目となっており、食習慣に課題を感じている人も多い。

“いっぱい食べられる”とは、前述のとおり、量の多さだけではなく“たくさんの種類”の意味合いも強い。野菜を豊富に摂れるレシピはWebサイト等で様々紹介されているにも関わらず、“レシピがわかれば”との意見が強いのは、家庭の中にある野菜の在庫管理<sup>(注7)</sup>との関係も考えられる。野菜を豊富に取り入れた食習慣を定着させるには、色々な種類の野菜を余らせることなく使いきるよう、レシピのローテーションも合わせて示していくことも必要であろう。

果物では「価格が安くなれば」(73.1%)が“きっかけ”の中では突出しており、安さへの期待は野菜よりも大きい。2番目の“きっかけ”も「収入が増えれば」(31.0%)となっており、生活に余裕が出た部分で果物を購入する人が多いことを示している。

1回に買う果物の金額は「300円以内」との回答が4割を占める。例えば、リンゴだけを数個298円で売るのであれば、リンゴと梨を詰め合わせて数個298円で売の方が手にとってもらえる可能性は高まるのではないだろうか。

食卓に果物がある風景に対するイメージを主婦に聞いた設問では、20-30代に限れば「子供が笑顔になる感じ」(45.5%)が「季節感が増す感じ」(59.0%)・「健康的な感じ」(46.3%)に次いでランクされている。総じて、プラスイメージを持つ人が多く、内食回帰が進む中、果物がある食卓を家族で囲む光景を想起してもらうことも、果物を「もう少し(もっと)食べたい」気持ちを消費行動につなげる一方策と考える。

注 7) 調査日当日に家庭内にあった生鮮野菜と、うち使用した種類を野菜の満足度別に見ると、主婦の平均で「満足」は 14.9 アイテム中 7.1 アイテム、「もっと食べたい」は 10.9 アイテム中 4.0 アイテムとなっている。

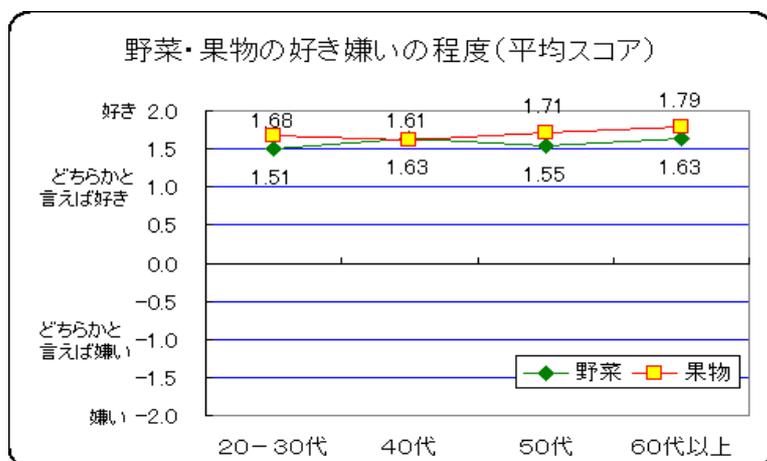
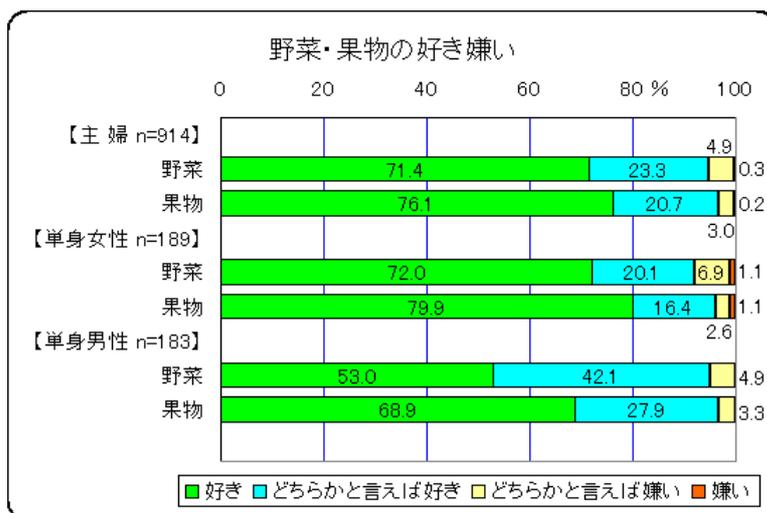
# 調査結果の概要

## 1. 野菜や果物は好き？ 嫌い？

野菜や果物の好き嫌いを4段階に分けて聞いたところ、野菜・果物とも95%前後の人が「好き」「どちらかと言えば好き」と回答している。

男女別に見ると、女性(主婦・単身女性)の方が単身男性に比べて「好き」が多く、野菜では20ポイント程度、果物では10ポイント程度の差がついている。

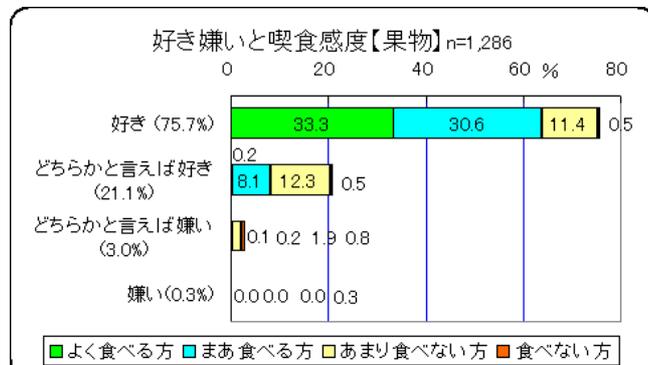
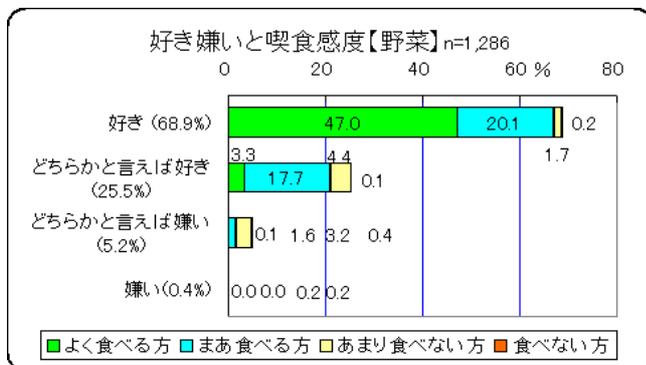
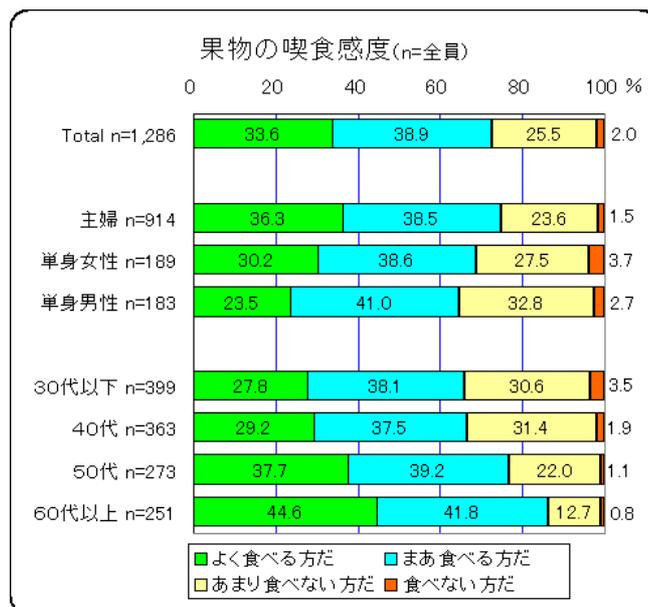
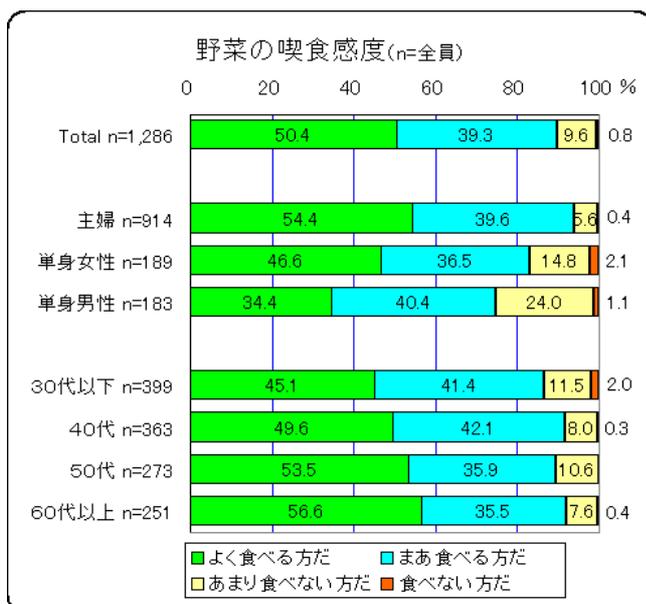
なお、好き嫌いの程度は、野菜・果物とも年代間に大きな差は見られなかった。



## 2. 野菜や果物をよく食べる方・食べない方？ 喫食の感度は？

野菜や果物を食べている感度を4段階に分けて聞いたところ、野菜では9割(89.7%)が“食べる方”(「よく食べる方だ」「まあ食べる方だ」の合計)と回答しているのに対して、果物を“食べる方”は7割(72.5%)にとどまる結果となった。「よく食べる方だ」「あまり食べない方だ」で野菜・果物間の差が大きい。

主婦/単身者別に見ると、野菜・果物とも主婦・単身女性・単身男性の順に喫食感度が高い人が多くなっている。また、年代間の差も表れている。特に果物では「あまり食べない方だ」の割合は60代以上の12.7%に対して30代以下・40代では3割を超えており、年代間の差が大きい。好き嫌いとの関係を見ても、果物では、“果物は好きだが、「あまり食べない」「食べない」”は全体の11.9%となっている。



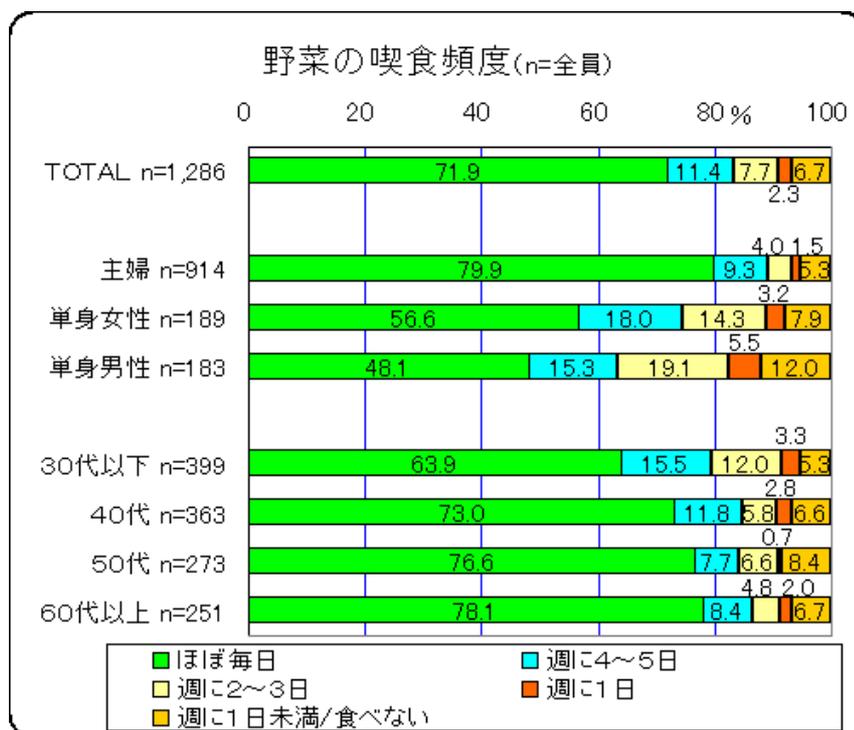
※「好き嫌いとの喫食感度」のグラフ中の数値は、全体(n=1,286)に対する割合。

### 3. 野菜や果物を食べる頻度は？

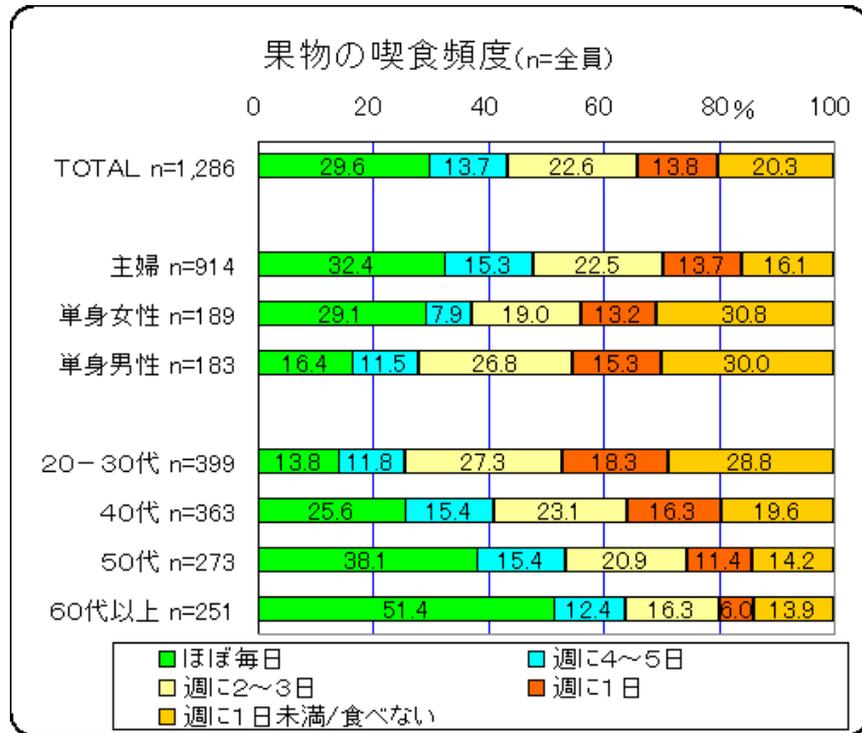
野菜や果物を食べる頻度を聞いたところ、野菜を「ほぼ毎日」食べる人は7割(71.9%)であるのに対して、果物を「ほぼ毎日」は3割(29.6%)にとどまる結果となった。

主婦/単身者別に見ると、野菜・果物とも主婦・単身女性・単身男性の順に喫食頻度が高い人が多くなっている。野菜では、主婦と単身者間の差が大きく、「ほぼ毎日」は主婦では8割(79.9%)であるのに対し、単身者では6割を下回る結果(女性 56.6%、男性 48.1%)となっている。子供や家族に野菜を多く食べさせたいことで、主婦の喫食頻度が高くなっているものと思われる。

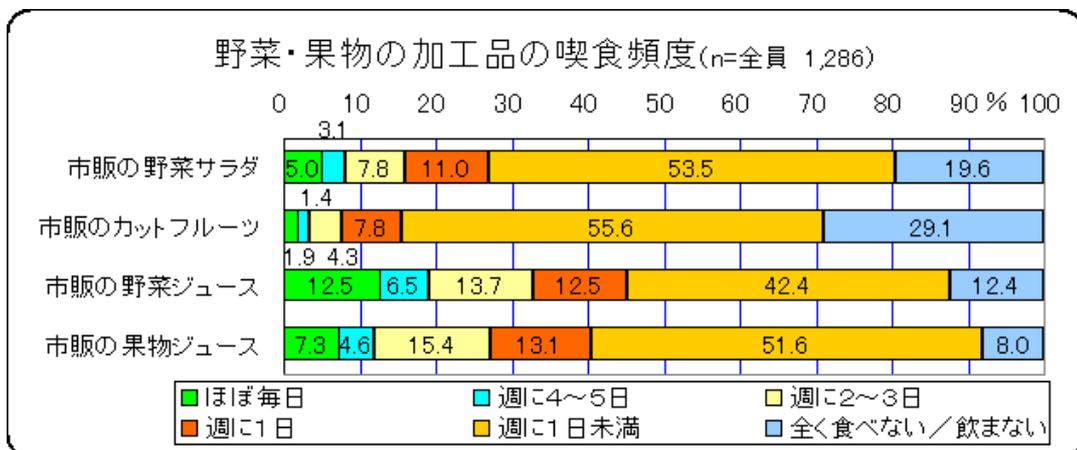
また、年代間の差も表れており、特に果物で顕著である。果物を「ほぼ毎日」食べる人は60代以上では5割超(51.4%)であるのに対して、30代以下では1割強(13.8%)にとどまる。



注)「ほぼ毎日」は「ほぼ毎食」「ほぼ毎日」を、「週に1日未満/食べない」は「月に2~3日」「月に1日程度」「年に数回」「全く食べない」をまとめたもの。



野菜や果物の加工品の喫食頻度は、生鮮に比べてかなり低く、どの加工品も「週に1日未満」が5割前後を占めている。喫食頻度が高いのは「市販の野菜ジュース」で12.5%が「ほぼ毎日」飲んでいる。逆に、喫食頻度が低いのは「市販のカットフルーツ」で3割(29.1%)は「全く食べない」と回答している。

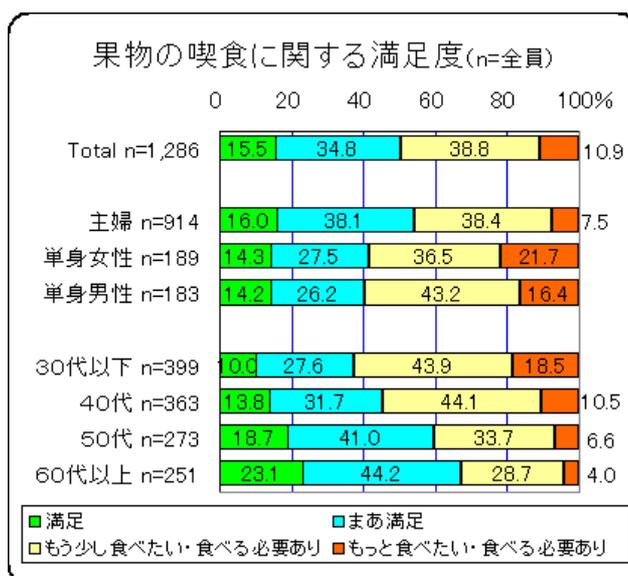
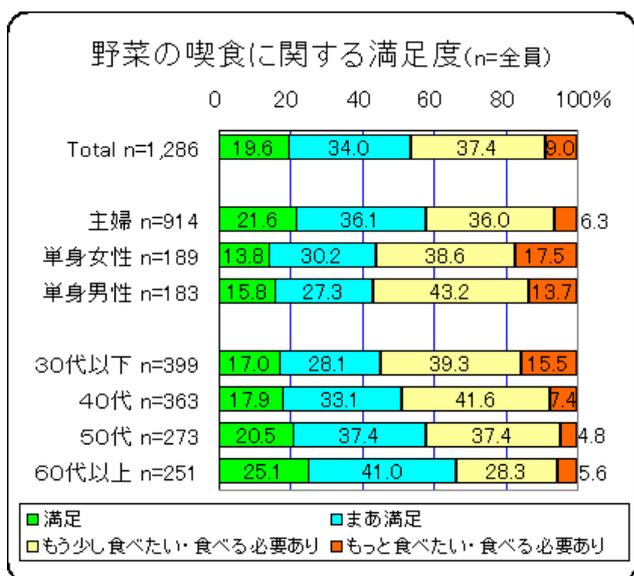


注)「市販の野菜(果物)ジュース」は、果汁・野菜汁100%のものに限って聞いた。

#### 4. 野菜・果物を食べる頻度や量に対する満足度は？

野菜・果物を食べる頻度や量に対する満足度を4段階に分けて聞いたところ、果物の「満足している」(15.5%)が野菜(19.6%)に比べてやや少ないものの、野菜・果物ともほぼ同様の結果となった。半数近い人(野菜 46.4%・果物 49.7%)が「もう少し食べたい/食べる必要がある」「もっと食べたい/食べる必要がある」と回答している。

主婦/単身者別に見ると、野菜・果物とも「もう少し(もっと)食べたい/食べる必要がある」の割合は、主婦に比べて単身者の方が12~15ポイント高くなっている。また、年代間の差も表れており、年代が低くなるほど、「もう少し(もっと)食べたい/食べる必要がある」の割合は高くなっている。



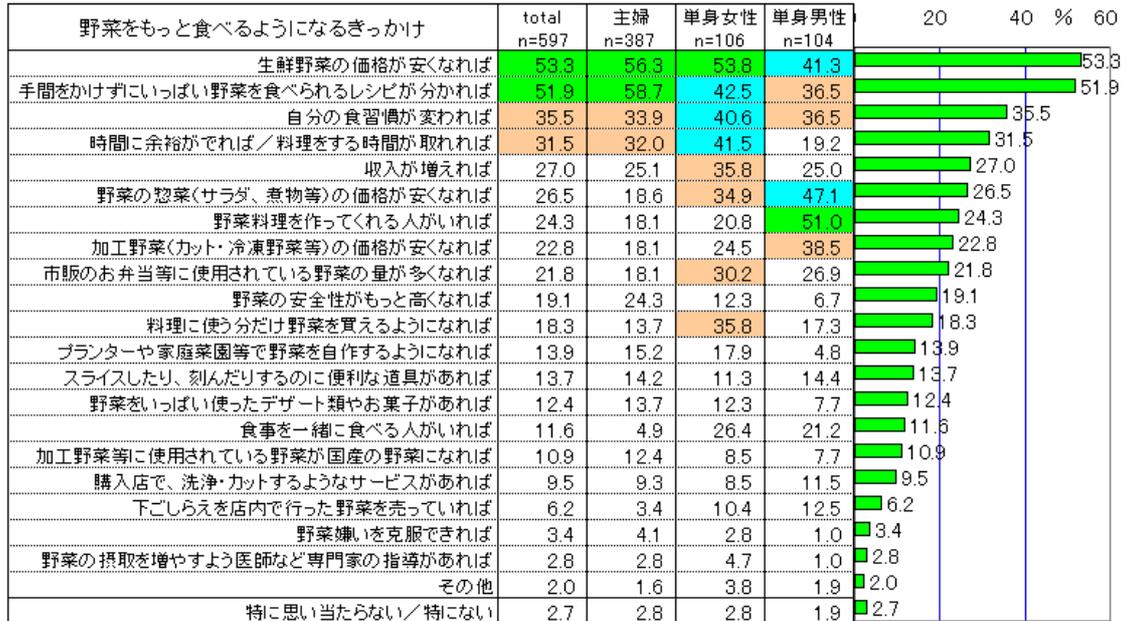
#### 5. 野菜や果物をもっと食べるようになる“きっかけ”は？

野菜・果物を「もう少し(もっと)食べたい/食べる必要がある」と回答した人に、どういうきっかけがあれば食べる量が増えるかを聞いたところ、野菜・果物とも「価格が安くなれば」との回答が一番多い結果(野菜 53.3%、果物 73.2%)となった。

野菜の2番目は「手間をかけずにいっぱい野菜を食べられるレシピがわかれば」(51.9%)で、主婦では一番のきっかけとなっている。次いで「自分の食習慣が変われば」が35.5%で続

いており、食習慣に課題を感じている人も多い。

果物では「価格が安くなれば」が突出している。2番目は「収入が増えれば」となっており、生活に余裕が出た部分で果物を購入する人が多いことを示している。



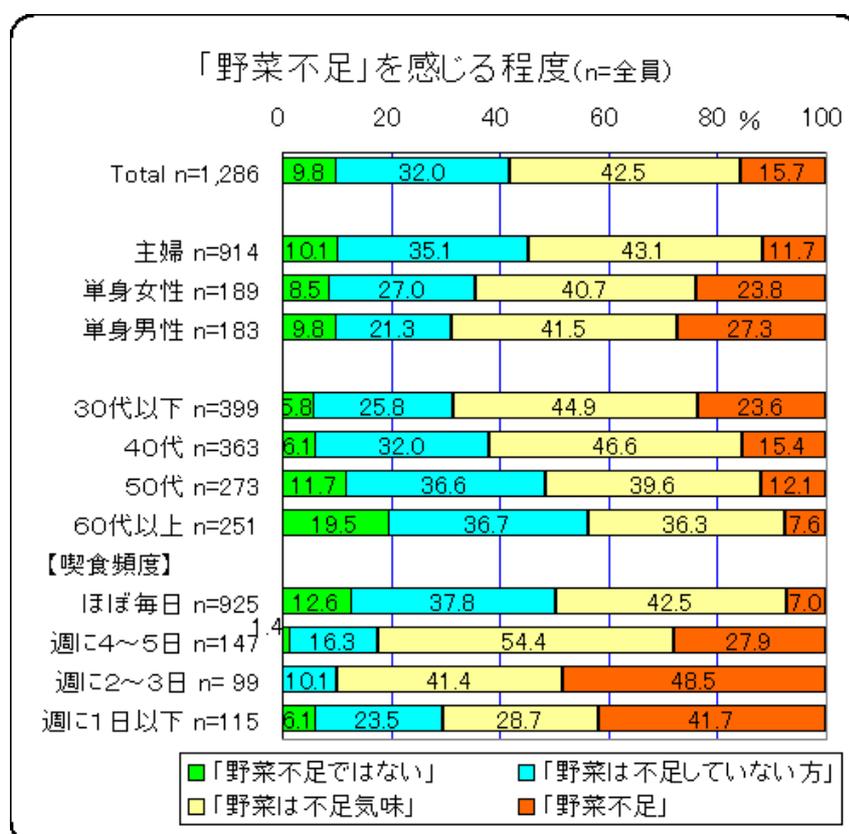
注) 表の網掛けは、■50%以上 ■40%以上 ■30%以上

## 6. 「野菜不足」を感じる程度は？

日頃の食生活の中で自分自身は「野菜不足」だと思うか、4段階に分けて聞いたところ、「野菜不足ではないと思う」は9.8%で、「野菜は不足していない方だと思う」(32.0%)と合わせても約4割にとどまり、残り約6割が「野菜不足だと思う」「野菜は不足気味だと思う」と回答している。

主婦/単身者別に見ると、単身者のほぼ4人に1人は「野菜不足」だと思っている。また、年代別では、年代が低いほど「野菜不足」を感じている人が多くなっている。

野菜の喫食頻度との関係を見ると、当然のことながら、喫食頻度が高いほど“野菜不足感”は解消されるものの、野菜を「ほぼ毎日」食べている人でも「野菜不足ではない」「野菜は不足していない方」と思う人は合わせて50.4%と半数にとどまる。野菜を毎日食べていても、食べる量や種類が少ないと感じている人が多い状況がうかがえる。



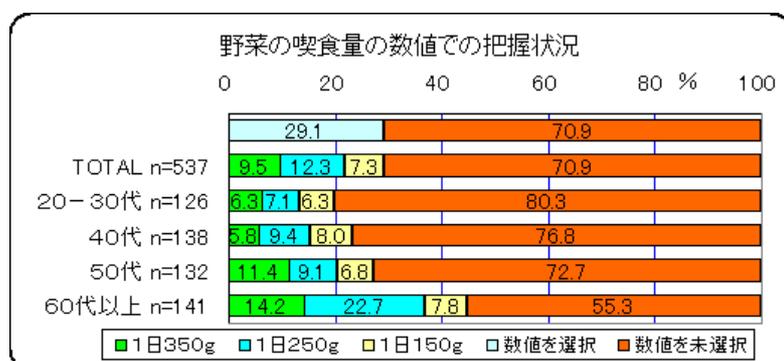
## 6-1. 「野菜は不足していない」と思う理由は？

「野菜不足ではない」「野菜は不足していない方」と回答した人 (n=537) に、不足していないと思う理由を聞いたところ、「ほぼ毎食、野菜料理を食べているから」(64.8%) 「家庭の食事、使用する野菜の量が多いから」(64.6%) 「色々な種類の野菜を食べているから」(45.6%)と、理由の上位には、喫食頻度の高さ・喫食量の多さ・種類の多さが並んだ。

具体的な数量を示した3つの選択肢を選んだ人は合わせて 29.1%で、内訳は「1日に250g ぐらいは食べているから」が 12.3%で一番多く、次いで「350g」(9.5%)・「150g」(7.3%)となっている。回答者の実際の摂取量は不明であるが、“健康日本21”で掲げる野菜摂取量の目標(成人 1 人 1 日当たり350g)の理解はあまり浸透していないようだ。

「野菜不足ではない」と思う理由	total n=537	主婦 n=413	単身女性 n=67	単身男性 n=57	20	40	60%	80
ほぼ毎食、野菜料理を食べているから	64.8	65.9	67.2	54.4	64.8			
家庭の食事、使用する野菜の量が多いから	64.6	68.0	61.2	43.9	64.6			
色々な種類の野菜を食べているから	45.6	47.2	41.8	38.6	45.6			
果物を良く食べるから	26.6	25.7	40.3	17.5	26.6			
野菜不足からくる身体の不調を感じていないから	19.7	16.7	34.3	24.6	19.7			
市販の野菜ジュース等をよく飲んでいるから	15.5	13.1	28.4	17.5	15.5			
中食や外食時に野菜が多いものを選んだりしているから	13.2	11.4	25.4	12.3	13.2			
※ 野菜を1日250gぐらいは食べているから	12.3	11.4	9.0	22.8	12.3			
プランターや家庭菜園等で自分で野菜を作っているから	10.2	10.7	13.4	3.5	10.2			
※ 野菜を1日350gぐらいは食べているから	9.5	8.5	13.4	12.3	9.5			
サプリメント(主にビタミン類)を飲んでいるから	8.2	8.0	9.0	8.8	8.2			
※ 野菜を1日150gぐらいは食べているから	7.3	6.8	9.0	8.8	7.3			
市販の果物ジュースをよく飲んでいるから	6.3	5.3	7.5	12.3	6.3			
果汁を習慣的に飲んでいるから	4.3	3.1	10.4	5.3	4.3			
冷凍食品・加工食品は野菜が多いものを選んでるから	3.4	1.7	10.4	7.0	3.4			
その他	1.3	1.7			1.3			
特に理由はない/何となく	3.5	3.1	4.5	5.3	3.5			

注) 表の網掛けは、■ 50%以上 ■ 40%以上 ■ 30%以上



注) 設問全体は複数回答であるが、数量を示した選択肢はそれぞれ単一回答とした。

## 6-2. 「野菜は不足している」と思う理由は？

「野菜不足だと思う」「野菜は不足気味だと思う」と回答した人(n=749)に、不足していると思う理由を聞いたところ、「食べる野菜の種類が少ないから」(47.4%)が最多で、2番目の「家庭の食事で、使用する野菜の量が少ないから」(36.7%)を10ポイント以上上回り、使用する量よりも野菜の種類が少ないことに課題を感じている人が多い。

次いで「量の基準／どれだけ食べれば足りるのかが分からないから」(34.6%)と続き、前項で指摘したとおり、野菜が不足していると思っている人でも野菜の摂取量の目標は浸透していないようだ。

野菜の摂取量の目標を示していくことは重要であるが、一方で、野菜の重さを日頃の生活の中で把握することは難しい。例えば、“外食メニューに使用している野菜の重さを表示する”“野菜売り場に秤を置く”“レシートに重量を印字する”等、野菜の摂取量や購入量を可視化するサービスを充実させることで、漠然とした野菜の不足感が野菜の消費行動につながっていく可能性がある。

「野菜は不足している」と思う理由	total n=749	主婦 n=501	単身女性 n=122	単身男性 n=126	20	40	%	60
食べる野菜の種類が少ないから	47.4	45.7	50.8	50.8	47.4			
家庭の食事で、使用する野菜の量が少ないから	36.7	37.3	42.6	28.6	36.7			
量の基準／どれだけ食べれば足りるのかが分からないから	34.6	36.5	30.8	31.0	34.6			
家庭の食事で、野菜を使った料理が少ないから	26.7	25.1	23.0	36.5	26.7			
「健康日本21」目標摂取量に足りていないと思うから	26.4	28.7	24.6	19.0	26.4			
野菜の価格が高く十分な量や多くの種類を買えないから	21.0	21.4	20.5	19.8	21.0			
野菜を買うと結局余らせてしまうから／無駄になるから	20.8	16.0	38.5	23.0	20.8			
十分な量や多くの種類を買うと家計を圧迫するから	20.4	20.8	23.8	15.9	20.4			
仕事や家事が忙しくて、野菜を調理する時間がないから	17.0	14.0	28.7	17.5	17.0			
野菜の調理は面倒だから	14.6	11.4	18.9	23.0	14.6			
「健康日本21」目標摂取量はとも食べきれないから	11.3	12.6	8.2	9.5	11.3			
家族が野菜料理を食べないから	9.3	13.8		0.8	9.3			
野菜の下ごしらえの仕方や調理方法が分からないから	8.4	6.6	8.2	15.9	8.4			
ファストフードや外食・中食中心の食生活だから	7.7	3.2	13.1	20.6	7.7			
食が細いから／食事の量が少ないから	6.5	5.2	10.7	7.9	6.5			
家庭の食事に、冷凍・加工食品を用いることが多いから	5.6	4.2	7.4	9.5	5.6			
冷凍や水煮等の野菜の加工品の安全性が気になるから	5.6	7.0	3.3	2.4	5.6			
野菜が苦手／嫌いだから	4.5	5.2	4.9	1.6	4.5			
野菜不足からくる身体の不調を感じるから	2.5	2.2	4.1	2.4	2.5			
その他	1.7	2.0	0.8	1.6	1.7			
特に理由はない／何となく	2.7	2.8	2.5	2.4	2.7			

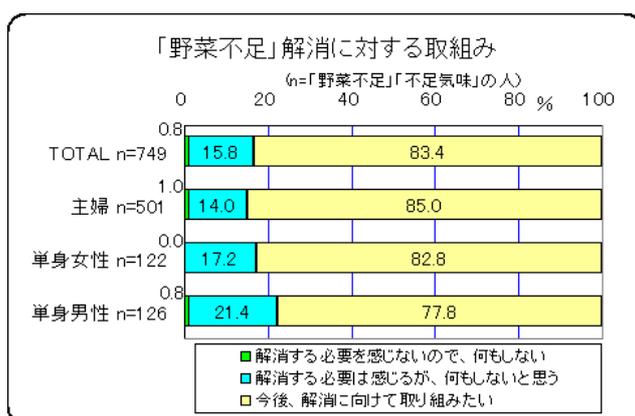
注) 表の網掛けは、■50%以上 ■40%以上 ■30%以上

### 6-3. 「野菜不足」を解消したい？

「野菜不足だと思う」「野菜は不足気味だと思う」と回答した人(n=749)に、どのようにして不足を解消したいかを聞いた。「解消する必要を感じない」人は 0.8%とほぼゼロに等しい。「解消する必要は感じるが、何もしないと思う」は 15.6%で、単身男性での割合がやや高い。結果、「今後、解消に向けて取り組みたい」は 83.4%となった。

取り組む内容は、「家庭の食事で野菜料理や使用する野菜の量を多くしたい」が 58.6%で一番多く、次いで「市販の野菜ジュース等を飲むようにしたい」が 27.4%で続いている。

主婦/単身者別に見ると、単身者では「サプリメントを飲むようにしたい」「カット野菜をもっと利用するようにしたい」等、簡便な方法で解消したい割合が主婦に比べて高くなっている。



「野菜不足」の解消方法	total n=537	主婦 n=501	単身女性 n=122	単身男性 n=126	20	40	%	60
家庭の食事で野菜料理や使用する野菜の量を多くしたい	58.6	67.5	47.5	34.1				
市販の野菜ジュース等を飲むようにしたい	27.4	25.1	32.8	31.0	27.4		58.6	
果物を多く食べるようにしたい	16.8	17.2	15.6	16.7		16.8		
サプリメント(主にビタミン類)を飲むようにしたい	16.4	12.4	22.1	27.0		16.4		
中食や外食時には、野菜が多いものを選んだりしたい	13.2	11.8	16.4	15.9		13.2		
プランターや家庭菜園等で、自分で野菜を作りたい	12.6	13.6	13.1	7.9		12.6		
市販の果物ジュースを飲むようにしたい	11.3	9.8	12.3	16.7		11.3		
カット野菜をもっと利用するようにしたい	10.4	7.2	13.9	19.8		10.4		
青汁を飲むようにしたい	8.7	7.6	12.3	9.5		8.7		
冷凍野菜や水煮等の野菜の加工品をもっと利用したい	6.1	6.0	4.1	8.7		6.1		
冷凍食品・加工食品は、野菜が多いものを選びたい	6.1	4.4	6.6	12.7		6.1		
その他	1.3	1.2	3.3			1.3		

注) 表の網掛けは、■ 40%以上 ■ 30%以上 ■ 20%以上

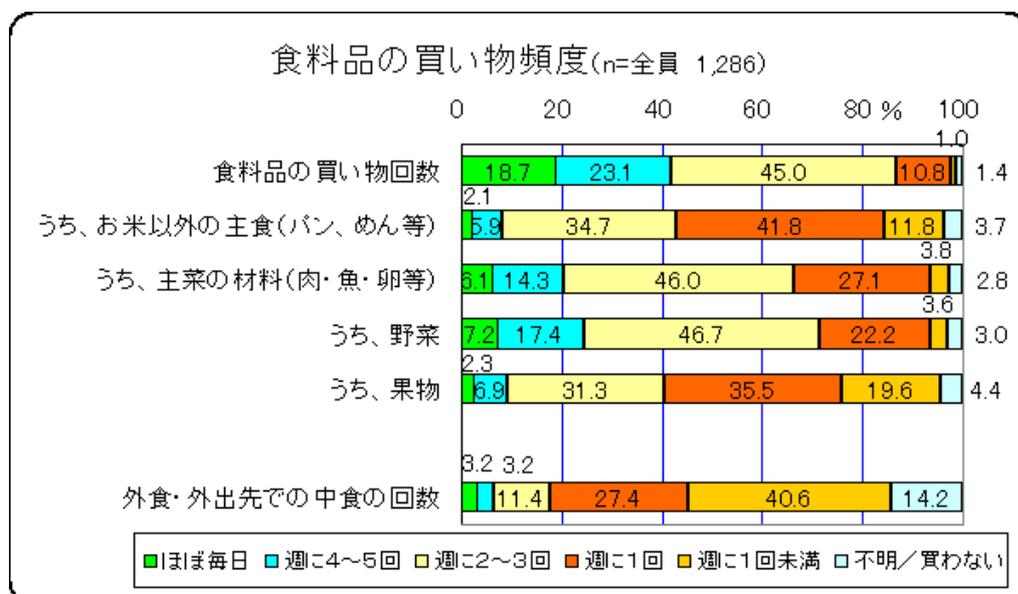
## 7. 食料品の買い物の回数は？

食料品の買い物の回数を聞いたところ、「週に2～3回」(45.0%)が一番多く、次いで「週に4～5回」(23.1%)・「ほぼ毎日」(18.7%)の順となった。

食料品の内訳で見ると、

- **お米以外の主食(パン、めん等)** 「週に1回」(41.8%)が一番多く、まとめ買いの傾向が強い。次いで「週に2～3回」(34.1%)・「週に1回未満」(11.8%)の順となっている。
- **主菜の材料(肉・魚・卵等)** 「週に2～3回」(46.0%)が半数近く、次いで「週に1回」(27.1%)・「週に4～5回」(14.3%)となっている。
- **野菜** 主菜の材料とほぼ同じ傾向となっているが、「週に4～5回」(17.4%)がやや多く、その分「週に1回」(22.2%)がやや少なくなっている。
- **果物** お米以外の主食とほぼ同じ傾向となっているが、「週に1回未満」(19.6%)の割合が高く、お米以外の主食に比べて購入頻度が低い人が多くなっている。

また外食や外出先での中食の回数は、「週に1回未満」(40.6%)が一番多く、次いで「週に1回」(27.4%)・「不明/外食はしない」(14.2%)の順となった。

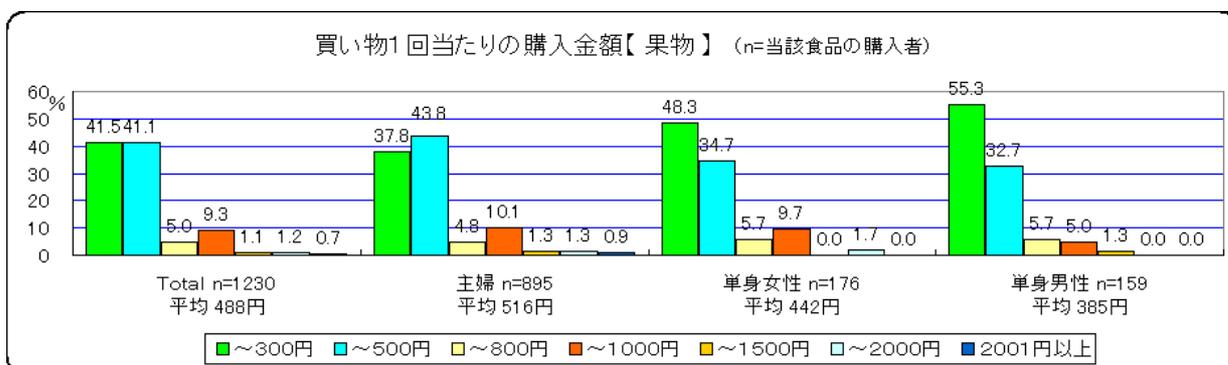
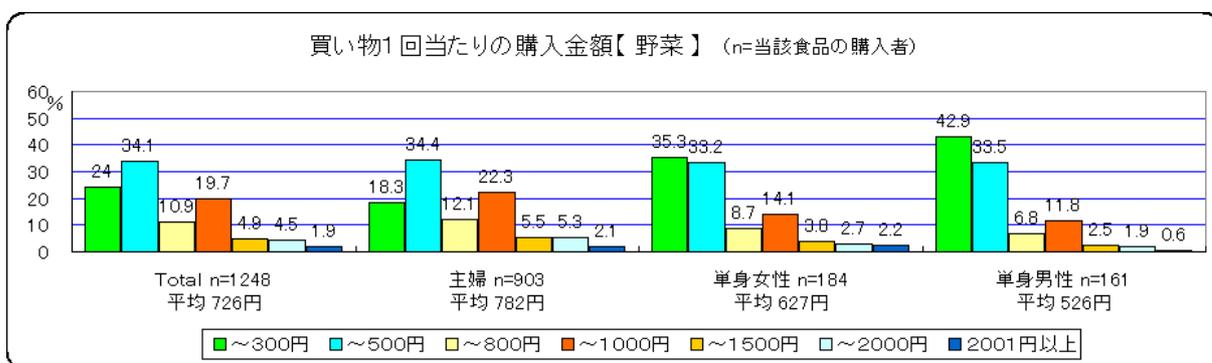


注)「ほぼ毎日」は「ほぼ毎日(1日2回以上)」「ほぼ毎日(1日1回)」を、「不明/買わない」は「家族等が買い物するので分からない」「この買い物(飲食)は全くしない」をグループ化したもの。

## 8. 野菜・果物の買い物1回当たりの購入金額は？

野菜・果物の購入頻度は、野菜では「週に2～3回」(46.7%)、果物では「週に1回」(35.5%)が多数派を占めている。それでは、1回の買い物で野菜・果物をいくら位購入するのか、野菜・果物を購入している人に聞いた。

- 野菜** 主婦では「301円～500円」(34.4%)・「801円～1000円」(22.3%)の2つの山があり、平均値は782円・中央値は500円となっている。単身者では、「～300円」「301円～500円」が大きな山となっており、この2つのレンジで7割前後(女性68.5%・男性76.4%)を占めている。平均値は女性627円・男性526円、中央値は男女とも500円となっている。
- 果物** 野菜に比べて集中度は高くなり、主婦/単身者とも「～300円」「301円～500円」の2つのレンジで大多数(主婦81.6%、単身女性83.0%、単身男性88.0%)を占めている。平均値は主婦516円・単身女性442円・単身男性385円、中央値は主婦500円・単身女性400円・単身男性300円となっている。



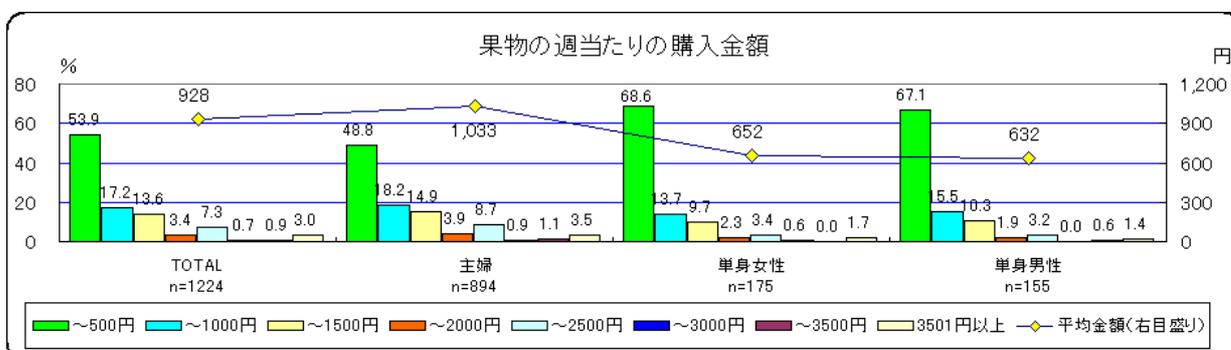
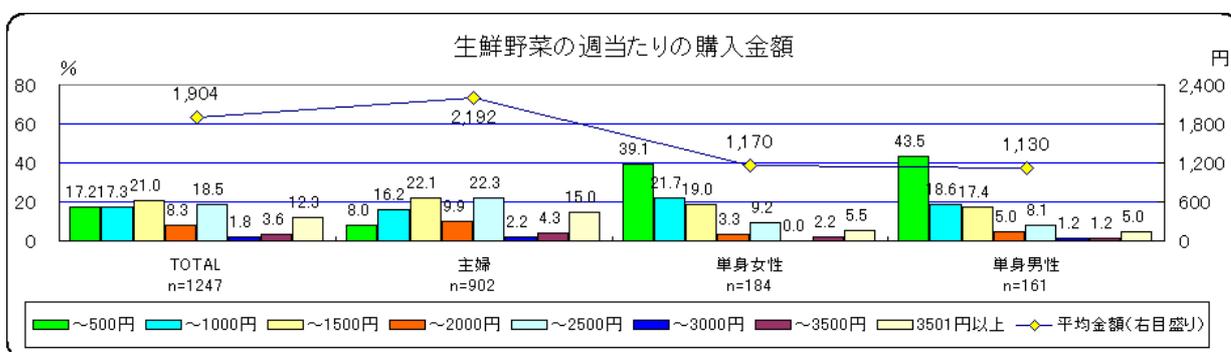
注) 買い物1回当たりの金額は自由回答(円単位)で聞いた。

## 8-1. 野菜・果物の週当たりのおよその購入金額は？

野菜・果物の購入頻度と買い物1回当たりの購入金額をもとに、週当たりのおよその購入金額を算出した。

- 野菜** 主婦では全体的になだらかな分布となっており、「1001円～1500円」(22.1%)・「2000円～2500円」(22.3%)のレンジの割合がやや高く、平均値は2,192円・中央値は1,950円となっている。単身者では、「～500円」に4割前後(女性39.1%・男性43.5%)が集中しており、「501円～1000円」「1000円～1500円」が2割前後で続いている。平均値は女性1,170円・男性1,130円、中央値は男女とも750円となっている。
- 果物** 主婦/単身者とも「～500円」が多数派(主婦48.8%、単身女性68.6%、単身男性67.1%)となっており、野菜に比べて集中度は高い。平均値は野菜のほぼ半額で主婦1,033円・単身女性652円・単身男性632円、中央値は主婦750円・単身女性350円・単身男性400円となっている。

なお、野菜と果物の合計の平均金額は主婦3,212円・単身女性1,781円・単身男性1,707円、中央値は主婦2,550円・単身女性1,200円・単身男性1,115円となっている



注) 計算式 週当たりの購入金額(10円単位に四捨五入)=週当たり買い物回数×1回当たり購入金額

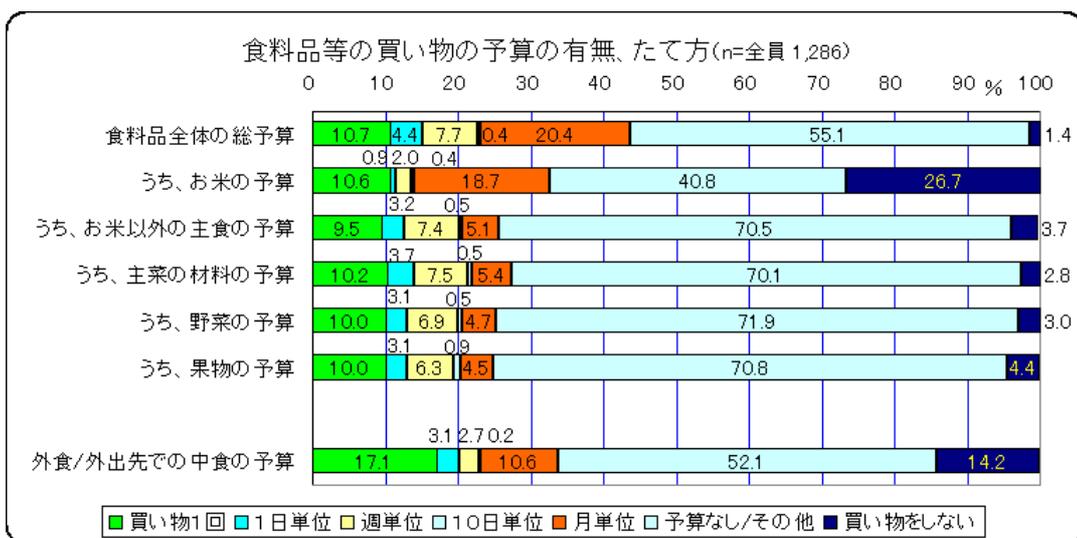
## 9. 食料品等の買い物の予算を決めている？

食料品等の買い物について予算を決めているかどうかを聞いたところ、買い物の予算を大体いくらまでと決めている人は「食料品全体の総予算」で 43.5%、品目別には「お米」(32.6%)がやや多く、他の品目は25%前後となっている。

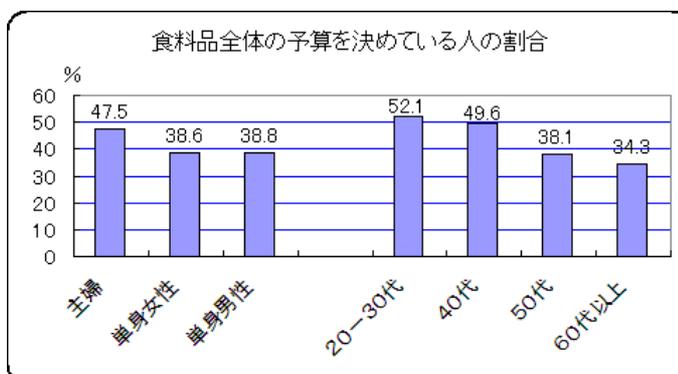
予算を決めている期間<sup>(注)</sup>は、「食料品全体」「お米」では「月単位」が2割前後と予算を決めている人の半数程度を占め、「買い物1回当たり」が1割前後となっている。他の品目では「買い物1回当たり」が1割前後、「週単位」が7%前後、「月単位」が5%前後となっている。

注)設問では、予算を決めている期間が短い方を優先して答えてもらった。

なお、「外食や外出先での中食の予算」を決めている人は 33.7%で、うち半数(全体の17.1%)は「飲食1回当たり」大体いくらまでと決めている。



予算を決めている人は、主婦/単身者別では主婦が9ポイント程度多くっており、また年代別では年代が低いほど予算を決めている人が多くなっている。

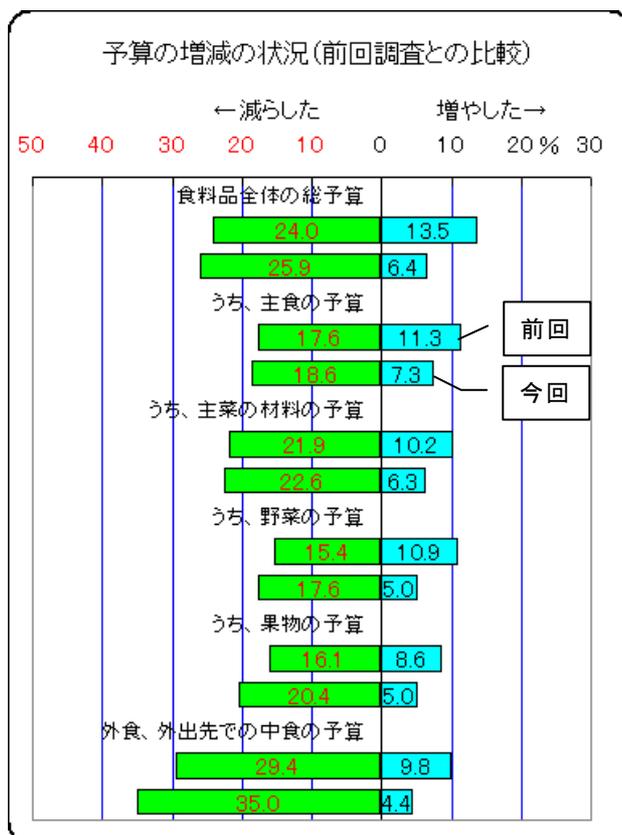
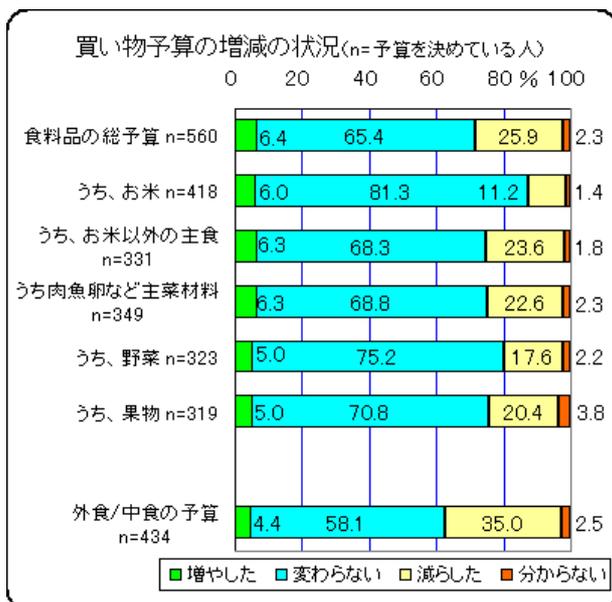


## 9-1. 食料品等の買い物の予算を増やした？ 減らした？

食料品等の買い物の予算を決めている人(n=560 全体の43.5%)に、2009年1月頃と比べた予算の変化を聞いたところ、25.9%がここ半年で「食料品全体の総予算」を「減らした」と回答している。また、「外食や外出先での中食の予算」を「減らした」は35.0%と、食料品全体の予算を減らした割合を10ポイント程度上回っている。前回の調査(注との比較でも、外食等の予算を減額した人は他の品目に比べて増加幅が大きく、節約志向が浸透する中で外食の予算を削る人が多くなっている。

注)08年12月「果物の消費行動に関する調査」

「野菜」や「果物」の予算を減額した人は「お米以外の主食(パン、めん等)」「主菜の材料(肉・魚・卵等)」に比べるとやや少ないものの、前回の調査からは2~4ポイント増加しており、予算措置の状況は、野菜や果物を増やしたい気持ちとは逆行している。(4. 野菜・果物を食べる頻度や量に対する満足度は？ を参照)



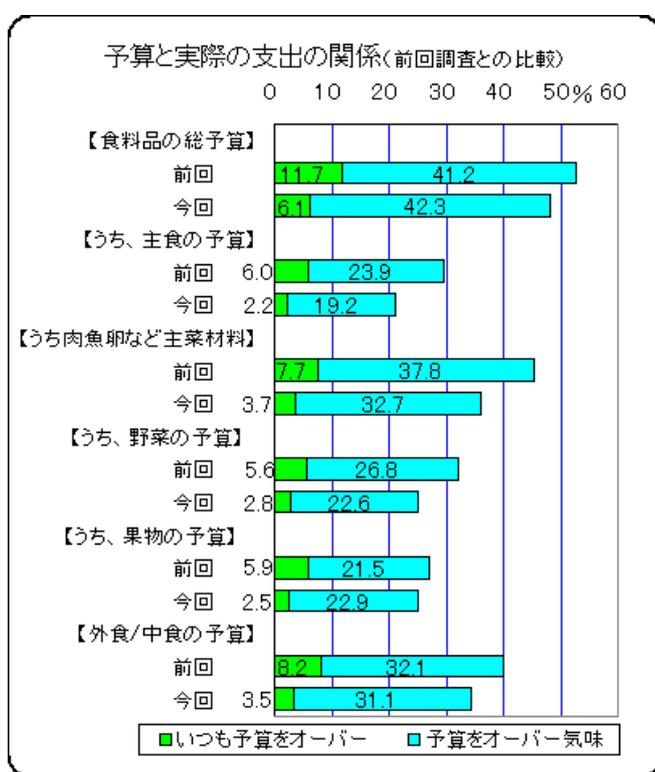
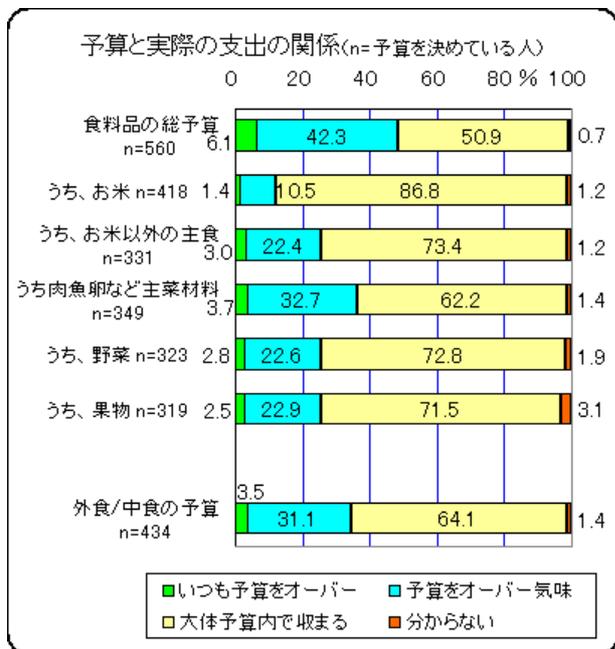
注) 前回は2007年12月→08年12月間の変化、今回は09年1月→09年7月間の変化。今回の「主食」は「お米」「お米以外の主食」の回答内容から再集計したもの。

## 9-2. 食料品等の買い物の予算のやり繰りは？

食料品等の買い物の予算を決めている人(n=560 全体の 43.5%)に、決めている予算と実際の支出の関係を聞いたところ、半数近い人(48.4%)が「食料品全体の総予算」に対して実際の支出が「いつも予算をオーバーしてしまう」「予算をオーバー気味である」と回答している。予算を削減した人は多くなっているものの、実際の運用場面では、やり繰りに苦労している状況がうかがえる。

品目別に見ると、「主菜の材料(肉・魚・卵等)」でオーバーしてしまう人が一番多く、逆に「お米」は予算内に収めている人が多い。「野菜」「果物」については「お米以外の主食(パン、めん等)」と同様、予算のやり繰りに苦労している人は25%前後となっている。

ただし、予算のやり繰りに苦労している人の割合は、前回の調査に比べて2ポイント(果物)～9ポイント(主菜材料)減少しており、「節約ペース」に慣れてきた人が段々と増えている状況がうかがえる。



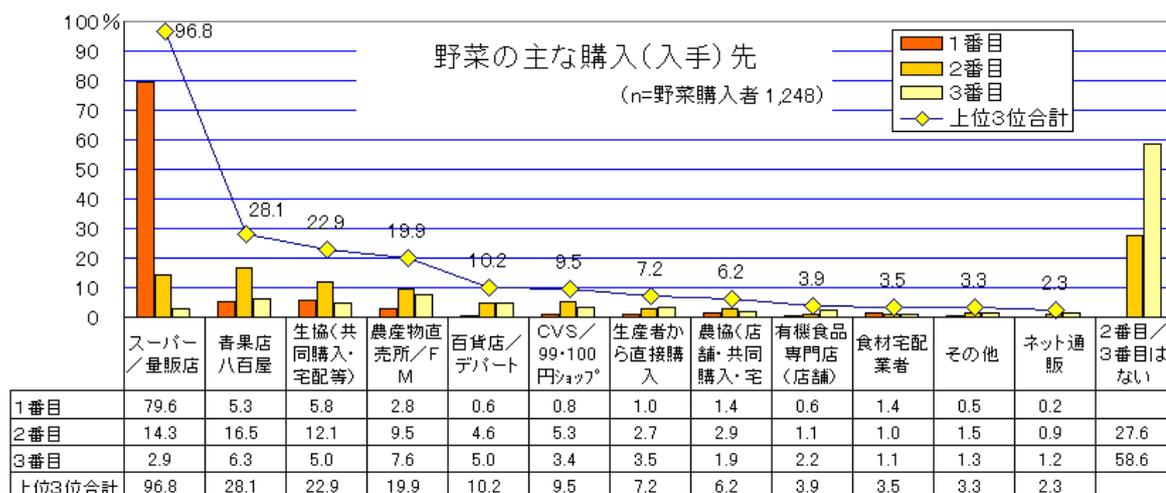
注) 前回は 2008 年 12 月時点、今回は 09 年 7 月間時点。  
 今回の「主食」は「お米」「お米以外の主食」の回答内容から再集計したもの。

## 10. 野菜や果物をどこで購入しているか？

日頃、野菜や果物を購入している人(野菜 n=1,248、果物 n=1,230)に、主に購入している場所(業態別、上位3位)を聞いた。

野菜の購入先トップ3は、①スーパーマーケット／量販店(96.8%) ②青果専門店／八百屋(28.1%) ③生協(店舗、共同購入・宅配等)(22.9%)の順で、スーパーについてはほぼ全員が利用している結果となった。

“地産地消”意識の高まりや“新鮮志向”“節約志向”を受けて注目が集まる「農産物直売所／ファーマーズマーケット(FM)」は全体では19.9%と4位であるが、九州で3割超、東北・北関東では4割前後の利用者があり、東海でも僅差ながら「青果専門店／八百屋」を抑えてスーパーに次ぐ購入先となっている。



### 【エリア別】

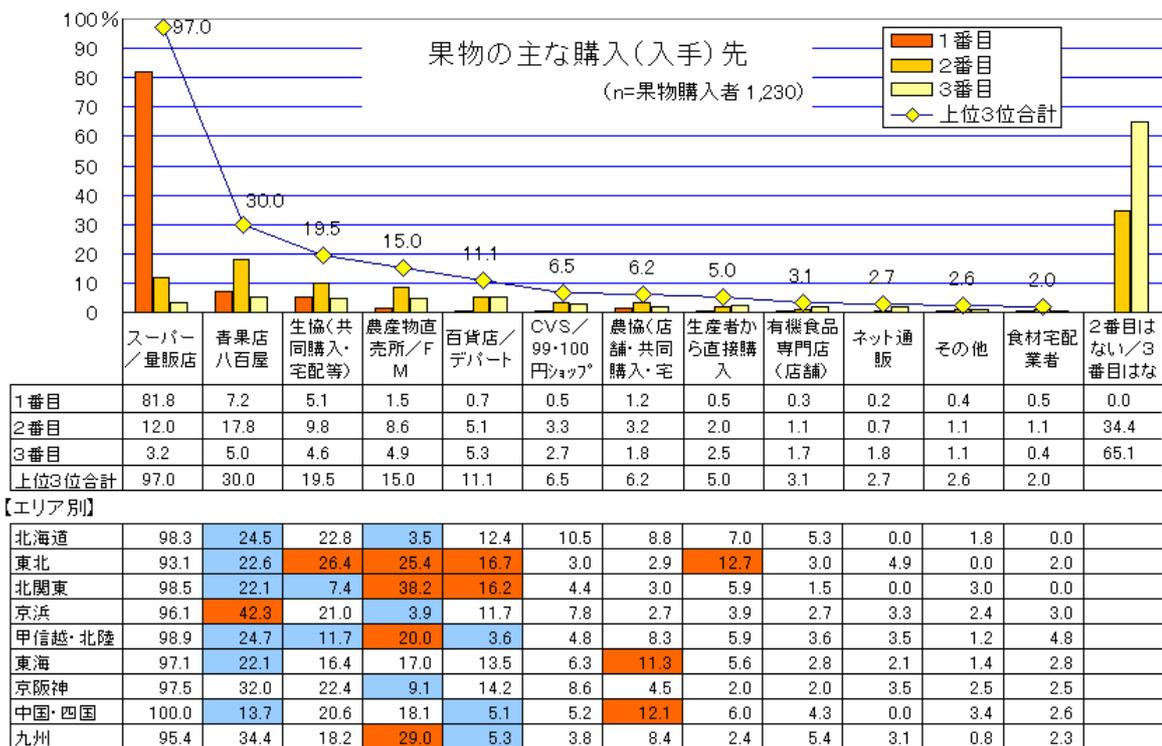
北海道	96.5	22.9	35.1	5.3	14.1	15.8	10.6	7.0	0.0	1.8	0.0	0.0	
東北	93.1	22.5	28.4	42.1	10.8	4.9	13.8	4.0	5.8	1.0	4.0	2.0	
北関東	98.6	19.7	14.0	38.0	19.8	5.6	11.2	4.2	2.8	2.8	1.4	0.0	
京浜	97.4	40.0	22.5	10.4	11.2	13.6	6.6	3.3	4.5	4.8	1.8	3.6	
甲信越・北陸	97.6	22.7	23.9	23.8	4.8	2.4	7.2	11.9	2.4	2.4	3.6	1.2	
東海	96.5	22.4	15.4	23.1	10.5	9.8	7.0	9.8	2.8	4.2	5.6	2.1	
京阪神	97.1	28.2	28.6	10.9	11.4	10.9	3.5	4.5	3.0	6.0	3.0	3.0	
中国・四国	97.5	16.1	20.3	19.4	5.9	5.8	5.8	8.5	4.2	3.4	4.2	0.8	
九州	97.0	28.6	19.5	31.6	5.3	7.6	8.3	9.0	6.8	0.8	6.1	2.3	

凡例:利用者の割合(上位3位までの累計)が、TOTALに対して、■5%以上多い ■5%以上少ない

エリア区分:北海道、東北(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)、北関東(茨城、栃木、群馬)、京浜(埼玉、千葉、東京、神奈川)、甲信越・北陸(新潟、富山、石川、福井、山梨、長野)、東海(岐阜、静岡、愛知、三重)、京阪神(滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)、中国・四国(鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知)、九州(福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)

果物の購入先トップ3は、①スーパーマーケット／量販店(97.0%) ②青果専門店／八百屋(30.0%) ③生協(店舗、共同購入・宅配等)(19.5%)の順で、野菜と同じ結果となった。

4位は「農産物直売所/ファーマーズマーケット(FM)」で野菜と同じであるが、利用者の割合は15.0%と野菜(19.9%)を5ポイント下回っている。果物は産地が限られることから、野菜に比べて利用割合が低くなっているものと考えられる。



## 10-1. 野菜や果物をその購入先から買う理由は？

野菜や果物を購入している人(野菜 n=1,248、果物 n=1,230)に、1番目に挙げた購入先について、どういう理由からそこで野菜や果物を購入するのかを聞いた。

野菜の購入先の選定理由をTOTAL欄で見ると、立地や売り方については、「野菜以外の食材の買い物も一箇所で済むから」(82.7%)が突出しており、次いで「近所・通り道にあるから」(30.8%)となっている。品揃えや品質・価格については、「日常食べる野菜がひととおり揃うから」(41.7%)が一番多く、“ワンストップショッピング” “一定の品揃え” “店へのアクセス”を理由に、結果として「スーパー/量販店」を選択している人が多くなっていると言える。

主婦/単身者間で比較すると、主婦では「チラシがよく入るから/チラシが見やすいから」(26.0%)、単身女性では「時間に関係なく購入できる/買い物の手間が省けるから」(23.4%)、単身男性では「1個売りや小量パックが充実しているから」(20.5%)の割合が高くなっている。

購入先間の比較では、

- **スーパー/量販店** 「野菜以外の食材の買い物も一箇所で済むから」「チラシがよく入るから/チラシが見やすいから」「特売価格やタイムサービス価格が安いから」の割合が高くなっており、ワンストップショッピングの利便性に加えて、特売等が集客効果を上げている。
- **生協** 「品質が良いから」「地元の生産者が作った野菜が購入できるから」等の“品質の良さ”や“野菜の素性”に関する理由、「有機栽培や特別栽培の野菜を購入できるから」の割合が高く、結果として「信頼できるお店だから」との評価につながっている。
- **青果専門店/八百屋** 「品質が良い割には、手頃な価格だから」「通常の販売価格が安いから」等の品質面や価格面の理由の割合が高く、「商店街の中のお店で便利だから」「古くからなじみのお店だから」等も選定される理由となっている。
- **農産物直売所/生産者から直接** 「栽培者の名前や顔がわかる野菜を購入できるから」等の“野菜の素性”に関する理由、品質面や価格面の理由の割合が高い。また、「商品の回転が速いから/古いものを置いていないから」「商品説明や調理法等を教えてくれるから」等の“鮮度の良さ”や“消費者とのコミュニケーション”も選定される理由の一つとなっている。
- 以下は回答者数が少ないため他との比較は難しいが、**食材宅配業者**では「野菜BOXで購入できるから」「栽培の過程がわかる野菜を購入できるから」、**農協**では「農家が開設したお店/農家・生産者の直売のお店だから」、**コンビニエンスストア等**では「近所・通り道にあるから」「時間に関係なく購入できるから/買い物の手間が省けるから」が、選択されている特徴的な理由と見ることができよう。

単位: 縦%

野菜の購入先(1番目)の選定理由	TOTAL	属性			1番目の購入先											
		主婦	単身女性	単身男性	(含むネットスーパー)	スーパー/量販店	(含む共同購入・宅配)	生協	青果専門店/八百屋	生産者から直接	農産物直売所	食材宅配業者	(含む共同購入・宅配)	農協	コンビニエンスストア等	左記以外のところ
凡例 太字 30%以上 ■ 他と比較して割合が高い																
TOTAL(回答者数)	1,248	903	184	161	994	72	66	48	18	17	10	23				
立地・売り方など																
野菜以外の食材の買い物も一箇所で済むから	82.7	82.8	81.0	83.9	93.6	73.6	22.7	10.4	44.4	52.9	40.0	34.8				
近所・通り道にあるから	30.8	28.3	39.7	34.2	32.0	15.3	42.4	12.5	0.0	29.4	90.0	30.4				
食品以外の日用品や衣料品の買い物も一箇所で済むから	27.8	29.6	39.7	17.4	31.9	29.2	1.5	0.0	5.6	5.9	40.0	8.7				
ポイント制度があるから	24.8	25.6	27.2	18.0	28.5	25.0	3.0	2.1	5.6	11.8	10.0	8.7				
チラシがよく入るから/チラシが見やすいから	22.5	26.0	16.8	9.3	26.6	13.9	3.0	0.0	5.6	11.8	10.0	4.3				
時間に関係なく購入できる/買い物の手間が省けるから	16.7	16.1	23.4	13.0	17.1	20.8	4.5	0.0	55.6	11.8	50.0	17.4				
信頼できるお店だから	13.1	14.0	10.9	10.6	9.0	38.9	22.7	22.9	33.3	17.6	0.0	47.8				
商品の回転が速いから/古いものを置いていないから	11.9	12.6	10.9	9.3	10.2	12.5	19.7	31.3	0.0	17.6	20.0	26.1				
1個売りや少量パックが充実しているから	11.3	9.7	10.9	20.5	11.7	13.9	6.1	8.3	11.1	5.9	30.0	4.3				
商店街の中のお店で便利だから	5.4	4.1	10.9	6.2	5.1	1.4	16.7	0.0	0.0	0.0	20.0	8.7				
農家開設のお店/農家・生産者の直売のお店だから	4.6	4.8	3.3	5.0	0.8	5.6	9.1	60.4	11.1	23.5	0.0	17.4				
他にお店が無いから	4.3	3.7	6.0	6.2	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7				
古くからなじみのお店だから	2.5	2.3	2.2	3.7	1.8	1.4	15.2	0.0	0.0	5.9	0.0	4.3				
野菜BOX(旬の野菜詰合せ)で購入できるから	2.1	2.2	1.6	1.9	1.1	8.3	0.0	0.0	38.9	0.0	0.0	8.7				
商品説明や調理法・食べ方・食べ頃を教えてくれるから	1.8	1.7	1.1	3.7	0.7	2.8	9.1	12.5	5.6	0.0	0.0	4.3				
試食ができるから	1.2	1.4	0.5	0.6	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3				
品揃え・品質・価格など																
日常食べる野菜がひととおり揃うから	41.7	40.8	45.7	42.9	43.4	41.7	37.9	18.8	33.3	47.1	50.0	30.4				
特売価格やタイムサービス価格が安いから	19.9	20.7	20.7	14.3	23.1	8.3	7.6	2.1	0.0	11.8	10.0	13.0				
通常の販売価格が安いから	17.6	17.3	17.4	19.9	16.9	4.2	37.9	29.2	0.0	11.8	40.0	17.4				
品質が良い割には、手頃な価格だから	17.1	17.8	12.5	18.6	14.0	22.2	39.4	39.6	5.6	23.5	30.0	26.1				
低価格の割には、品質が良いから	13.4	13.6	8.2	18.0	11.8	4.2	36.4	33.3	0.0	5.9	30.0	13.0				
品質が良いから	12.3	13.3	10.9	8.1	7.0	31.9	24.2	45.8	50.0	17.6	0.0	43.5				
地元の生産者が作った野菜を購入できるから	11.2	12.3	10.9	5.6	6.4	30.6	19.7	60.4	11.1	23.5	0.0	26.1				
栽培者の名前や顔がわかる野菜を購入できるから	10.2	10.3	12.0	7.5	6.2	27.8	4.5	45.8	50.0	23.5	0.0	30.4				
見切り品の値引き幅が大きいから/見切りが早いから	6.8	6.5	7.1	8.1	7.9	2.8	1.5	0.0	0.0	0.0	10.0	8.7				
特定の産地・生産者の産直コーナーがあるから	6.4	7.2	5.4	3.1	4.9	15.3	3.0	20.8	11.1	11.8	0.0	17.4				
同じものでも産地や栽培方法、品種を色々選べるから	5.9	6.9	4.3	2.5	5.3	6.9	7.6	4.2	16.7	5.9	0.0	21.7				
有機栽培や特別栽培の野菜を購入できるから	5.0	5.8	3.8	2.5	1.8	26.4	1.5	14.6	44.4	5.9	0.0	39.1				
国産の野菜しか扱っていないから	4.2	4.5	3.8	2.5	1.2	8.3	16.7	25.0	33.3	5.9	0.0	17.4				
栽培の過程がわかる野菜を購入できるから	3.5	3.4	4.9	2.5	1.9	13.9	1.5	6.3	38.9	0.0	0.0	17.4				
新しい品種や珍しい野菜を購入できるから	3.1	4.0	1.1	0.6	2.5	1.4	1.5	4.2	22.2	5.9	0.0	21.7				
高級なブランド野菜を購入できるから	1.0	0.7	1.6	1.9	0.8	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0				
その他	1.7	1.8	1.1	1.9	1.0	2.8	4.5	0.0	5.6	0.0	0.0	21.7				

※「農産物直売所」と「生産者から直接購入」をグループ化し「農産物直売所/生産者から直接」として集計した。

果物の購入先についても、選定している理由は野菜とほぼ同様の結果となった。

果物に関して特徴的な点としては、青果専門店/八百屋では「味に当たり外れがないから」、生協では「新しい品種や珍しい果物が購入できるから」、食材宅配業者では「新しい品種や珍しい果物が購入できるから」「高級なブランド果物を購入できるから」の理由が、他の購入先に比べて比率が高くなっている点が挙げられる。

単位: 縦%

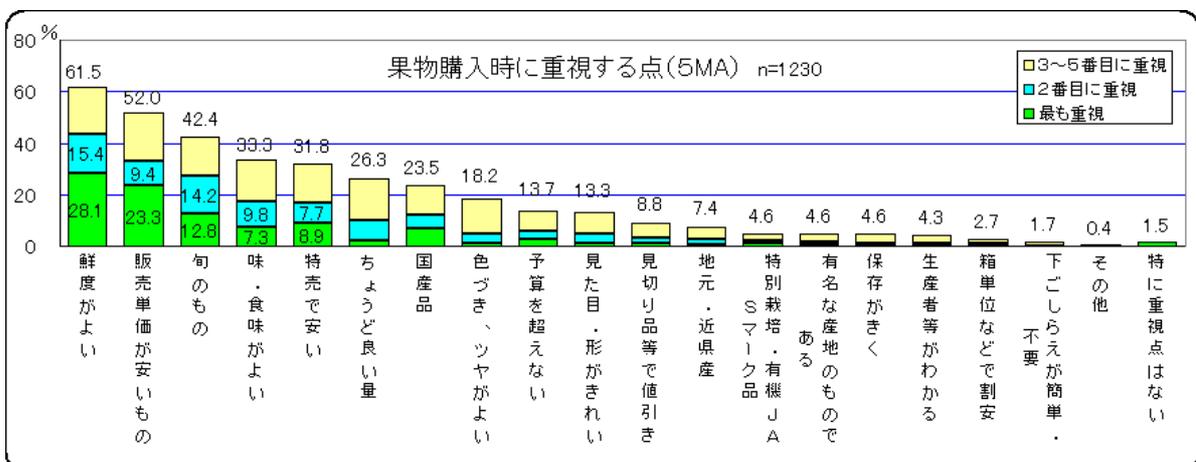
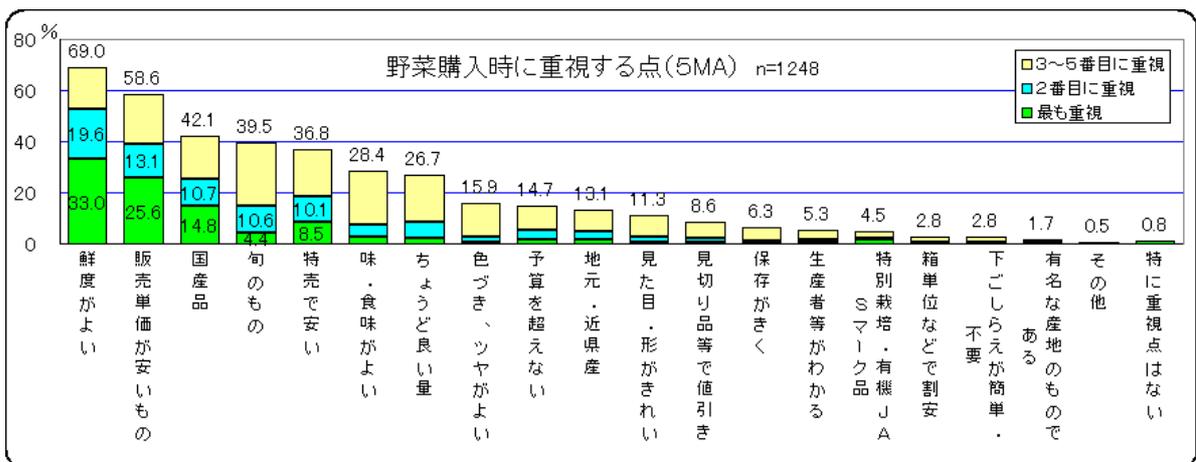
果物の購入先(1番目)の選定理由	TOTAL	属 性			1番目の購入先									
		主 婦	単身女性	単身男性	(含むネットスーパー)	青果専門店/八百屋	(含む共同購入・宅配)	生 協	農産物直売所/生産者から直接	(含む共同購入・宅配)	農 協	コンビニエンスストア等	食材宅配業者	左記以外のところ
凡例 太字 30%以上 ■ 他と比較して割合が高い														
TOTAL(回答者数)	1,230	895	176	159	1,006	88	63	25	15	6	6	21		
立地・売り方など														
果物以外の食材の買い物も一箇所で済むから	78.9	78.7	77.8	81.8	88.7	22.7	57.1	16.0	60.0	33.3	33.3	28.6		
近所・通り道にあるから	25.2	22.3	36.9	28.3	25.5	33.0	19.0	4.0	13.3	33.3	0.0	33.3		
食品以外の日用品や衣料品の買い物も一箇所で済むから	24.6	25.5	21.0	23.3	28.5	2.3	12.7	0.0	13.3	0.0	16.7	9.5		
ポイント制度があるから	19.5	20.0	21.6	14.5	21.9	2.3	19.0	4.0	0.0	0.0	33.3	14.3		
チラシがよく入るから/チラシが見やすいから	15.9	19.1	9.1	5.7	18.4	3.4	11.1	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0		
信頼できるお店だから	11.3	11.6	8.0	13.2	8.6	19.3	34.9	16.0	6.7	0.0	33.3	28.6		
1個売りや少量パックが充実しているから	10.3	8.9	11.4	17.0	10.9	3.4	7.9	12.0	20.0	16.7	0.0	9.5		
時間に関係なく購入できる/買い物の手間が省けるから	10.2	10.3	12.5	6.9	10.2	6.8	12.7	4.0	6.7	0.0	50.0	14.3		
商品の回転が速いから/古いものを置いていないから	7.3	7.2	6.3	9.4	6.8	8.0	6.3	24.0	20.0	16.7	0.0	4.8		
商店街の中のお店で便利だから	4.6	4.5	5.1	4.4	3.7	18.2	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5		
他にお店が無いから	4.1	3.6	4.5	6.3	4.1	3.4	3.2	0.0	13.3	0.0	0.0	9.5		
古くからなじみのお店だから	3.3	3.0	3.4	4.4	1.8	18.2	3.2	0.0	6.7	0.0	16.7	9.5		
農家開設のお店/農家・生産者の直売のお店だから	2.2	2.0	1.7	3.8	0.7	3.4	3.2	44.0	20.0	0.0	0.0	4.8		
商品説明や調理法・食べ方・食べ頃を教えてくれるから	1.5	1.6	0.6	1.9	0.6	9.1	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	4.8		
試食ができるから	1.2	1.5	0.6	0.6	1.2	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5		
品質・価格など														
日常食べる果物がひととおり揃うから	29.5	28.0	32.4	34.6	29.7	29.5	30.2	20.0	40.0	0.0	50.0	23.8		
特売価格やタイムサービス価格が安いから	13.7	14.5	10.8	11.9	15.6	5.7	6.3	0.0	6.7	0.0	0.0	4.8		
通常の販売価格が安いから	13.2	13.1	10.8	16.4	11.9	30.7	4.8	24.0	6.7	33.3	0.0	14.3		
品質が良い割には、手頃な価格だから	12.0	12.3	8.0	14.5	9.5	28.4	14.3	32.0	20.0	16.7	0.0	23.8		
低価格の割には、品質が良いから	11.6	10.5	11.9	17.6	8.9	34.1	14.3	36.0	13.3	16.7	0.0	9.5		
品質が良いから	7.9	8.2	8.5	5.7	4.8	17.0	20.6	40.0	20.0	0.0	66.7	19.0		
地元の生産者が作った果物が購入できるから	6.3	6.6	5.1	5.7	3.6	10.2	17.5	52.0	20.0	0.0	33.3	14.3		
味に当たり外れがないから	6.3	6.1	8.5	4.4	5.2	12.5	9.5	4.0	6.7	0.0	16.7	23.8		
栽培者の名前や顔がわかる果物を購入できるから	5.8	5.8	6.8	4.4	3.3	5.7	19.0	40.0	26.7	0.0	100.0	4.8		
見切り品の値引き幅が大きいから/見切りが早いから	4.7	4.7	4.0	5.7	5.1	2.3	4.8	0.0	0.0	16.7	0.0	4.8		
特定の産地・生産者の産直コーナーがあるから	4.2	4.5	4.5	2.5	3.2	1.1	9.5	20.0	26.7	0.0	16.7	14.3		
有機栽培や特別栽培の果物を購入できるから	3.6	3.8	3.4	2.5	1.5	4.5	22.2	8.0	6.7	0.0	83.3	14.3		
同じものでも産地や栽培方法、品種を色々と選べるから	3.6	3.7	2.3	4.4	3.3	0.0	4.8	12.0	0.0	0.0	33.3	14.3		
栽培の過程がわかる果物を購入できるから	2.4	2.6	2.8	1.3	1.6	1.1	9.5	12.0	6.7	0.0	50.0	0.0		
新しい品種や珍しい果物を購入できるから	2.4	2.9	1.1	0.6	1.6	1.1	7.9	4.0	0.0	0.0	33.3	19.0		
国産の果物しか扱っていないから	2.0	1.8	2.8	1.9	0.4	8.0	6.3	20.0	6.7	0.0	33.3	4.8		
高級なブランド果物を購入できるから	1.0	1.0	0.6	1.3	0.7	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	9.5		
その他	1.6	1.7	0.0	3.1	1.1	2.3	3.2	0.0	0.0	0.0	16.7	19.0		

## 11. 野菜や果物の購入に際して重視している点は？

野菜や果物を購入している人(野菜 n=1,248、果物 n=1,230)に、購入する際に重視する点(複数回答、5つまで)を聞いた。

野菜の重視点のトップ5は、①鮮度がよいこと(69.0%) ②販売単価が安いものであること(58.6%) ③国産品であること(42.1%) ④旬のものであること(39.5%) ⑤特売で安いこと(36.8%)となっている。前回調査(08年4月)では、①鮮度 ②国産 ③販売単価 ④旬 ⑤ちょうど良い量の順であったが、「国産」と「販売単価」の順位が入れ替わり、「ちょうど良い量」に代わって「特売」がランク入りした。前回の調査は、中国産ギョーザによる中毒事件直後で国産志向が強まっている時期と重なったが、景気の低迷もあり、「国産志向」は相対的に後退し、一方で“価格重視”の姿勢が強まっていると言える。

果物については、野菜に比べて「旬」「味・食味」の順位が上がっている。



## 11-1. 野菜や果物の加工品の購入に際して重視している点は？

野菜や果物の加工品を7つ示し、購入している人に購入する際に重視している点を聞いた。なお、購入している人の割合は「野菜ジュース、野菜・果実の混合ジュース(野菜汁・果汁100%のもの)」(91.3%)、「果実ジュース(果汁100%のもの)」(94.2%)、「カット野菜」(70.5%)、「冷凍野菜」(76.3%)、「トマトケチャップ」(95.8%)、「果物のジャム」(89.7%)、「漬け物」(88.8%)となっている。

■ **ジュース類** 「野菜ジュース」で「③塩分控えめであること」の比率が若干高い点を除いて、「野菜ジュース」「果物ジュース」とも重視している点の傾向に違いは見られない。重視するとの回答が一番多いのは「①味が良いこと」で、2番目は「⑤価格が安いこと」となっている。次いで「⑩消費期限・賞味期限まで余裕があること」「⑰合成保存料・発色剤等が添加されていないこと」がほぼ同率で並んでいる。

製造国や原材料の点については「⑫国内製造の商品であること」は25%前後、「⑭国産原料(野菜・果物)を使用したものであること」「⑮使用している原料の原産国表示がされていること」は15~18%が重視すると回答している。

■ **一次加工野菜** 「カット野菜」「冷凍野菜」について聞いたところ、重視するとの回答が一番多いのは「⑤価格が安いこと」で、2番目は「①味が良いこと」となっている。

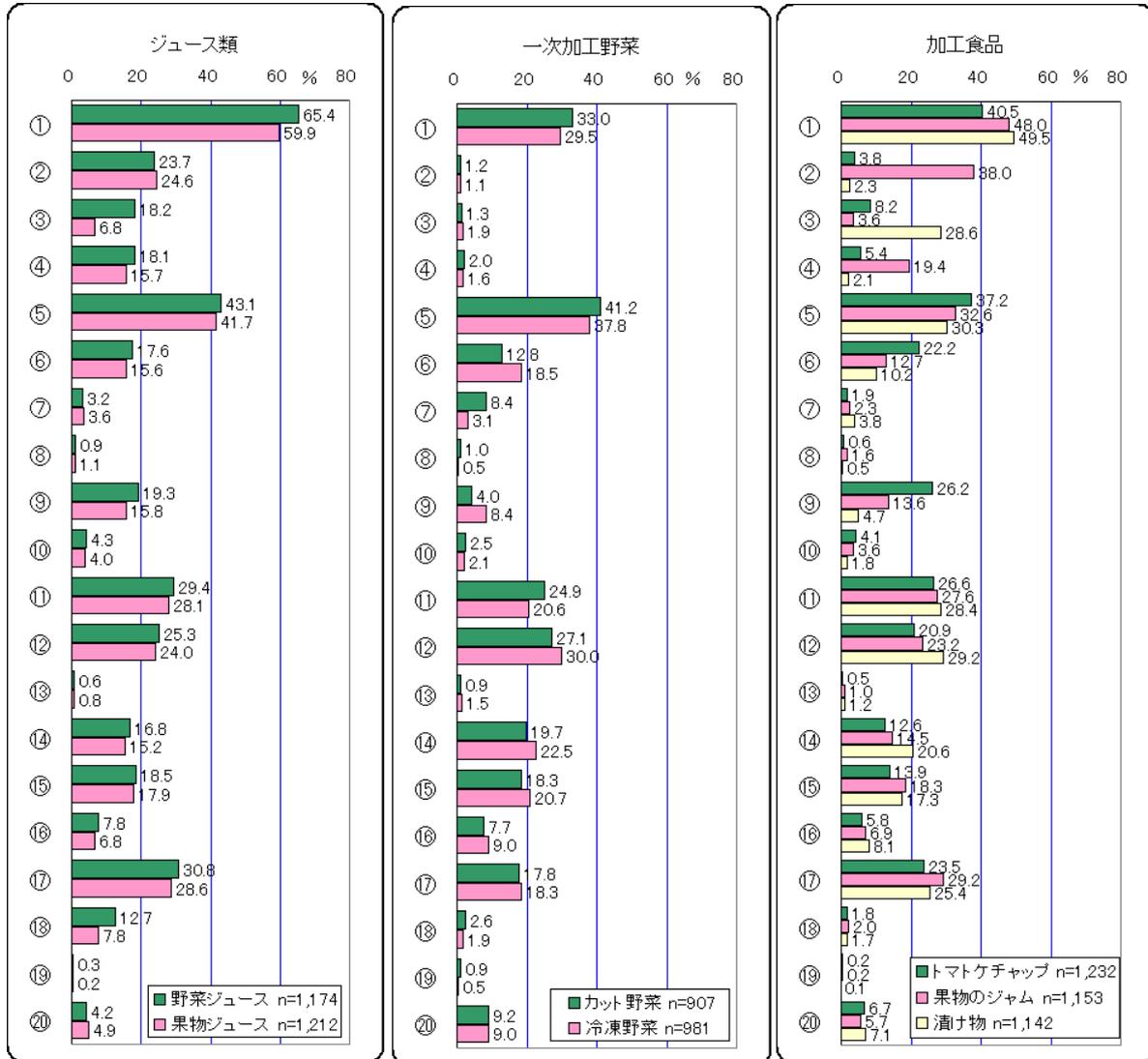
製造国や原材料の点については「⑫国内製造の商品であること」は30%程度、「⑭国産原料(野菜・果物)を使用したものであること」「⑮使用している原料の原産国表示がされていること」は20%前後が重視すると回答しており、いずれも「冷凍野菜」の比率が若干高くなっている。

なお、「カット野菜」では「⑦見切り品等で値引きされていること」が8.4%と例示した7品目の中では一番高く、生鮮野菜(8.6%)とほぼ同じ比率となっている。

■ **加工食品** JAの加工事業で製造されることが多い「トマトケチャップ」「果物のジャム」「漬け物」について聞いた。重視するとの回答が一番多いのはどの品目も「①味が良いこと」となっているが、「トマトケチャップ」では「⑤価格が安いこと」と拮抗している。特徴的な点では「果物のジャム」の「②甘さ控えめであること」(38.0%)、「漬け物」の「③塩分控えめであること」(28.6%)、「トマトケチャップ」の「⑨有名メーカー・大手メーカー品であること」(26.2%)・「⑥特売であること」(22.2%)が挙げられる。

原材料について「⑭国産原料(野菜・果物)を使用したものであること」は「漬け物」では20.6%と一次加工野菜とほぼ同程度となっているが、「トマトケチャップ」「果物のジャム」では12.6%・14.5%と、国産原料を重視する人の割合は加工度が高くなる程、少なくなっている。

## 野菜や果物の加工品の購入時に重視する点



- ① 味が良いこと
- ② 甘さ控えめであること
- ③ 塩分控えめであること
- ④ カロリー控えめであること
- ⑤ 価格が安いこと
- ⑥ 特売であること
- ⑦ 見切り品等で値引きされていること
- ⑧ 高級品であること
- ⑨ 有名メーカー・大手メーカー品であること
- ⑩ PB商品であること
- ⑪ 消費期限・賞味期限まで余裕があること
- ⑫ 国内製造の商品であること
- ⑬ 外国産の商品であること
- ⑭ 国産原料(野菜・果物)を使用したものであること
- ⑮ 使用している原料の原産国表示がされていること
- ⑯ 野菜や果物の産地で加工製造されたものであること
- ⑰ 合成保存料・発色剤等が添加されていないこと
- ⑱ 1本で野菜〇〇g分等の表示がされていること
- ⑲ その他
- ⑳ 特に重視する点はない

## 12. 1日の調理で使用した野菜は？ 買置きのある野菜は？

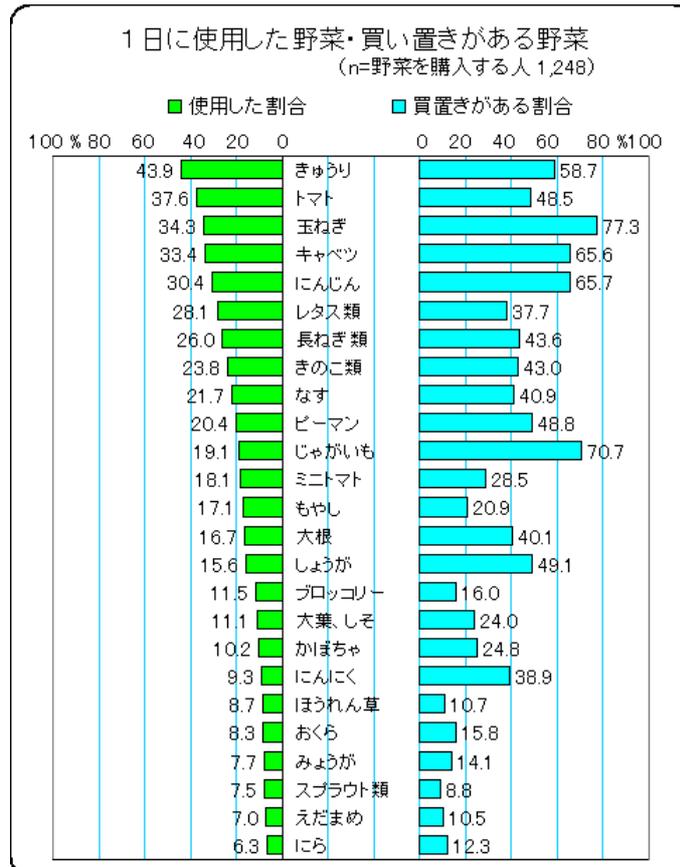
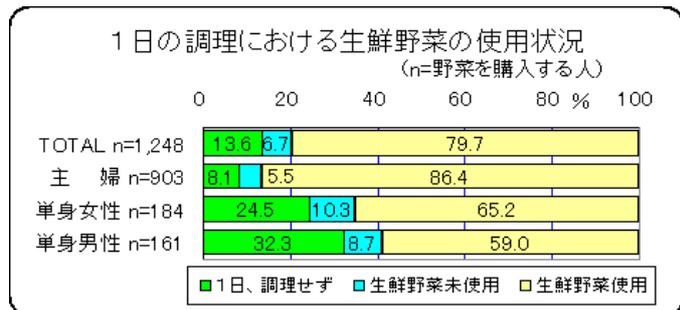
日頃、野菜を購入している人(n=1,248)に、1日の調理にどんな野菜を調理に使ったか、また、どんな野菜の買置きがあるかを聞いた。「1日に全く調理をしなかった」は13.6%、「調理をしたが生鮮野菜を使用しなかった」は6.7%となっており、「野菜を調理に使った」は79.7%という結果となった。また、「野菜の買置きがない」は全体で7.1%(主婦2.7%、単身女性13.0%、単身男性24.8%)となっている。

使用した割合が高いトップ5は、①きゅうり ②トマトに次いで、③玉ねぎ ④キャベツ ⑤にんじん、買置きのある野菜のトップ5は、①玉ねぎ ②じゃがいも ③にんじん ④キャベツ ⑤きゅうり の順となった。

使用した野菜と買置きのある野菜を合わせて、“回答日当日に家庭にあった野菜”を見ると、トップ10は、

①玉ねぎ	81.1%
②じゃがいも	73.4%
③にんじん	70.6%
④キャベツ	70.5%
⑤きゅうり	67.0%
⑥トマト	56.3%
⑦ピーマン	53.0%
⑧しょうが	51.3%
⑨長ねぎ、葉ねぎ等	49.4%
⑩きのこ類	47.5%

となっている。



※選択肢の野菜は、「指定野菜」「指定野菜に準ずる野菜」および「家計調査」の小品目等を参照に46種類を提示した。

主婦/単身者別に見ると、割合・順位に差はあるものの、上位10品目はほぼ同じ野菜となっている。これらは、夏場の時期、家庭にある定番の野菜と見てよいであろう。

なお、その他の生鮮野菜では、使用したものとして「ゴーヤ」(1.0%)・「水菜」(0.5%)・「ズッキーニ」(0.5%)等が挙げられた。

単位: 度数、縦%

凡例 ■ 属性内の上位5位 ■ 6-10位 太字 使用(15%以上)、買置き(30%以上)	1日の調理に使用した人				買置きがある人			
	TOTAL	主婦	単身女性	単身男性	TOTAL	主婦	単身女性	単身男性
TOTAL(野菜を購入している人) n=	1,248	903	184	161	1,248	903	184	161
1日、調理をしなかった	13.6	8.1	24.5	32.3	-	-	-	-
調理はしたが、生鮮野菜は使わなかった	6.7	5.5	10.3	8.7	-	-	-	-
買置きの生鮮野菜はない	-	-	-	-	7.1	2.7	13.0	24.8
玉ねぎ (81.1)	<b>34.3</b>	<b>39.1</b>	<b>19.6</b>	<b>24.2</b>	<b>77.3</b>	<b>84.9</b>	<b>64.1</b>	<b>49.7</b>
じゃがいも (73.4)	<b>19.1</b>	<b>22.8</b>	9.2	9.3	<b>70.7</b>	<b>79.5</b>	<b>57.6</b>	<b>36.0</b>
にんじん (70.6)	<b>30.4</b>	<b>35.0</b>	<b>20.7</b>	<b>16.1</b>	<b>65.7</b>	<b>76.2</b>	<b>45.7</b>	<b>29.8</b>
キャベツ (70.5)	<b>33.4</b>	<b>36.8</b>	<b>21.7</b>	<b>28.0</b>	<b>65.6</b>	<b>73.3</b>	<b>51.1</b>	<b>39.1</b>
きゅうり (67.0)	<b>43.9</b>	<b>49.4</b>	<b>33.2</b>	<b>25.5</b>	<b>58.7</b>	<b>67.4</b>	<b>39.1</b>	<b>31.7</b>
トマト (56.3)	<b>37.6</b>	<b>42.6</b>	<b>26.1</b>	<b>22.4</b>	<b>48.5</b>	<b>55.1</b>	<b>37.5</b>	<b>23.6</b>
ピーマン (53.0)	<b>20.4</b>	<b>22.3</b>	<b>17.4</b>	13.7	<b>48.8</b>	<b>56.5</b>	29.9	27.3
しょうが (51.3)	<b>15.6</b>	<b>18.8</b>	9.8	4.3	<b>49.1</b>	<b>57.1</b>	<b>36.4</b>	18.6
長ねぎ類 (49.4)	<b>26.0</b>	<b>29.8</b>	<b>15.8</b>	<b>16.1</b>	<b>43.6</b>	<b>49.4</b>	<b>34.2</b>	21.7
きのこ類 (47.5)	<b>23.8</b>	<b>27.1</b>	<b>16.8</b>	13.0	<b>43.0</b>	<b>49.6</b>	<b>31.5</b>	19.3
なす (47.0)	<b>21.7</b>	<b>24.3</b>	<b>18.5</b>	11.2	<b>40.9</b>	<b>46.8</b>	29.3	21.1
レタス類 (45.4)	<b>28.1</b>	<b>32.6</b>	<b>19.0</b>	13.7	<b>37.7</b>	<b>43.7</b>	24.5	19.3
大根 (43.9)	<b>16.7</b>	<b>19.5</b>	8.7	9.9	<b>40.1</b>	<b>45.8</b>	25.0	25.5
にんにく (40.2)	9.3	10.7	7.6	3.1	<b>38.9</b>	<b>44.9</b>	27.7	18.0
ミニトマト (32.8)	<b>18.1</b>	<b>21.0</b>	13.0	7.5	28.5	<b>33.4</b>	22.3	8.1
もやし (29.8)	<b>17.1</b>	<b>18.7</b>	10.9	14.9	20.9	23.5	10.3	18.6
かぼちゃ (28.0)	10.2	12.1	6.5	3.7	24.8	<b>30.1</b>	15.8	5.0
大葉・しそ (27.3)	11.1	12.4	8.2	6.8	24.0	27.2	20.7	9.9
ブロッコリー (21.4)	11.5	13.3	6.0	7.5	16.0	18.6	8.2	10.6
あくら (20.0)	8.3	9.2	7.1	5.0	15.8	18.6	12.0	4.3
長いも等 (18.9)	3.8	4.5	2.2	1.2	17.2	20.4	12.0	5.6
みょうが (17.1)	7.7	8.6	6.0	4.3	14.1	16.6	9.8	5.0
ごぼう (17.0)	4.6	5.4	2.7	2.5	14.8	17.9	9.2	3.7
にら (16.1)	6.3	7.3	2.7	4.3	12.3	14.3	9.2	4.3
ほうれん草 (15.9)	8.7	8.6	7.6	9.9	10.7	11.6	7.1	9.3
スイートコーン (14.7)	5.3	6.6	1.1	2.5	12.3	15.0	5.4	5.0
えだまめ (14.3)	7.0	7.6	4.3	6.2	10.5	11.6	6.5	8.7
さつまいも (13.5)	1.9	2.4	0.5	0.6	13.0	15.5	7.6	5.0
さやいんげん (13.2)	5.8	7.0	3.3	1.9	10.4	11.4	11.4	3.7
スプラウト類 (12.5)	7.5	8.4	4.3	5.6	8.8	10.1	3.3	8.1
ししとう (12.3)	4.8	5.1	6.5	1.2	10.2	12.3	6.5	2.5
小松菜 (11.5)	5.0	5.1	3.8	6.2	8.7	10.0	4.9	6.2
白菜 (10.6)	2.7	3.3	0.0	2.5	9.5	11.1	4.9	6.2
アスパラガス (9.1)	4.7	5.4	2.2	3.7	6.4	7.5	2.2	5.0
パセリ (5.4)	2.0	2.4	1.6	0.0	4.5	5.0	5.4	0.6
ちんげんさい (5.0)	1.8	2.4	0.5	0.0	3.8	4.7	2.7	0.0
里いも (4.8)	0.8	1.1	0.0	0.0	4.5	5.2	3.3	1.9
セロリ (4.6)	2.8	3.0	3.3	1.2	3.3	3.7	2.7	1.9
三つ葉 (4.4)	2.2	2.3	2.2	1.2	3.0	3.5	1.1	2.5
グリーンピース (3.9)	0.7	0.8	1.1	0.0	3.7	4.2	1.6	3.1
れんこん (3.4)	1.5	1.9	0.5	0.6	2.4	2.5	2.2	1.9
かぶ (3.3)	1.1	1.2	1.1	0.6	2.7	2.4	4.3	2.5
さやえんどう (2.4)	1.0	0.8	2.2	1.2	1.4	1.4	0.5	2.5
しゅんぎく (1.6)	1.0	0.6	2.2	2.5	0.6	0.8	0.0	0.6
そらまめ (1.6)	0.6	0.6	1.1	0.0	1.1	1.1	1.1	1.2
ふき (1.5)	0.8	0.9	0.5	0.6	0.9	1.1	0.5	0.0
その他の生鮮野菜 (6.7)	3.8	3.8	5.4	1.9	4.0	3.8	7.1	1.9

※野菜名の( )の数値は、使用した野菜と買置きの野菜を合わせて「回答日当日に家庭にあった割合」表は、( )の数値でソートしている。

## 12-1. 1日の調理で使用した加工野菜・買置きのある加工野菜は？

生鮮野菜と同様に、野菜を購入している人(n=1,248)に、1日の調理に使った加工野菜・買置きのある加工野菜を聞いた。

使用した割合は生鮮野菜に比べてかなり小さく、一番多く使用された「おろししょうが」でも2.6%、次いで「カットねぎ」「キャベツの千切り」がそれぞれ2%台で続いている。

買置きの加工野菜では「干し椎茸」(28.1%)・「おろししょうが」(26.0%)・「切干大根」(23.0%)・「おろしにんにく」(19.1%)・「トマトの水煮」(14.9%)がトップ5で、乾物やチューブ物が上位にランクされている。6-8位は「冷凍えだまめ」(11.9%)・「冷凍ミックスベジタブル」(10.5%)・「冷凍コーン」(8.7%)と冷凍野菜が続いている。9位は「カットねぎ」(7.9%)、10位は「たけのこの水煮」(6.7%)の順。

単位: 度数、縦%

凡例 ■ 属性内のトップ5 太字 使用(1%以上)、買置き(5%以上)	1日の調理に使用した人				買置きがある人			
	TOTAL	主婦	単身女性	単身男性	TOTAL	主婦	単身女性	単身男性
TOTAL(野菜を購入している人) n=	1,248	903	184	161	1,248	903	184	161
1日、調理をしなかった	13.6	8.1	24.5	32.3	-	-	-	-
調理はしたが、加工野菜は使わなかった	61.6	68.7	51.6	33.5	-	-	-	-
買置きの加工野菜はない	-	-	-	-	41.7	36.3	50.5	61.5
おろししょうが(惣菜に添付のもの除く)	<b>2.6</b>	<b>3.1</b>	<b>1.6</b>	<b>0.6</b>	<b>26.0</b>	<b>29.3</b>	<b>23.9</b>	<b>9.9</b>
カットねぎ	<b>2.2</b>	<b>1.7</b>	<b>3.8</b>	<b>3.7</b>	<b>7.9</b>	<b>8.1</b>	<b>8.7</b>	<b>6.2</b>
キャベツの千切り	<b>2.2</b>	<b>1.8</b>	<b>1.1</b>	<b>5.6</b>	1.4	1.0	1.1	4.3
干し椎茸	<b>1.8</b>	<b>2.1</b>	<b>1.1</b>	<b>1.2</b>	<b>28.1</b>	<b>32.2</b>	<b>23.4</b>	<b>10.6</b>
冷凍コーン	<b>1.5</b>	<b>2.0</b>	0.0	0.6	<b>8.7</b>	<b>10.9</b>	3.8	2.5
カットレタス	<b>1.2</b>	<b>1.3</b>	0.5	1.2	1.7	1.7	1.6	1.9
おろしにんにく(惣菜に添付のもの除く)	<b>1.1</b>	<b>1.2</b>	<b>1.1</b>	<b>0.6</b>	<b>19.1</b>	<b>22.0</b>	<b>16.3</b>	<b>5.6</b>
冷凍えだまめ	<b>1.1</b>	<b>1.2</b>	<b>1.1</b>	<b>0.6</b>	<b>11.9</b>	<b>13.4</b>	<b>7.6</b>	<b>8.7</b>
切干大根	<b>1.0</b>	0.6	<b>1.6</b>	<b>2.5</b>	<b>23.0</b>	<b>26.8</b>	<b>17.4</b>	<b>8.1</b>
サラダ用のカット野菜ミックス(惣菜のサラダは除く)	<b>1.0</b>	0.6	<b>1.6</b>	<b>3.1</b>	1.0	0.8	1.6	1.9
炒め物用のカット野菜セット	<b>1.0</b>	0.6	0.5	<b>4.3</b>	0.8	0.4	1.1	2.5
トマトの水煮(味付けなしのもの)	0.9	<b>1.1</b>	0.5	0.0	<b>14.9</b>	<b>16.7</b>	<b>14.7</b>	<b>5.0</b>
たけのこの水煮	0.9	<b>1.0</b>	0.5	0.6	<b>6.7</b>	<b>7.5</b>	<b>6.0</b>	2.5
冷凍ミックスベジタブル	0.8	0.7	0.5	<b>1.9</b>	<b>10.5</b>	<b>10.5</b>	<b>10.3</b>	<b>10.6</b>
冷凍ほうれん草	0.6	0.4	<b>1.1</b>	<b>1.2</b>	<b>5.4</b>	<b>5.9</b>	<b>6.0</b>	2.5
ささがきごぼう/細切りごぼう	0.6	0.7	0.5	0.0	2.0	2.4	0.5	1.2
菜味セット(小ねぎ、みょうが等のセット)	0.6	0.4	<b>1.6</b>	0.0	1.0	0.9	0.5	2.5
大根のつま、ケン(惣菜に添付のものを除く)	0.6	0.4	0.5	<b>1.2</b>	0.2	0.1	0.0	0.6
冷凍ポテト(ハッシュドポテトは除く)	0.5	0.7	0.0	0.0	<b>6.2</b>	<b>7.5</b>	2.2	3.1
冷凍サヤインゲン	0.5	0.4	<b>1.1</b>	0.0	3.5	3.7	4.3	1.9
山菜の水煮(単品またはミックス)	0.5	0.6	0.5	0.0	2.2	2.5	1.6	0.6
きんぴらごぼう用のセット	0.5	0.3	<b>1.1</b>	0.6	1.1	1.1	1.1	1.2
冷凍ブロッコリー	0.4	0.3	<b>1.1</b>	0.0	3.7	4.0	4.9	0.6
冷凍里芋	0.4	0.4	0.0	0.6	2.9	3.2	3.3	0.6
里芋の水煮	0.4	0.4	0.5	0.0	0.6	0.6	1.1	0.6
干しかんぴょう	0.3	0.3	0.0	0.6	<b>6.2</b>	<b>6.4</b>	<b>7.6</b>	3.1
冷凍かまぼこ	0.3	0.2	<b>1.1</b>	0.0	4.6	4.7	<b>6.5</b>	2.5
冷凍グリーンピース	0.3	0.4	0.0	0.0	4.5	4.9	4.3	2.5
和風の煮物用の野菜セット(味付けなしのもの)	0.3	0.2	0.5	0.6	1.9	2.1	1.6	1.2
大根おろし(冷凍または袋入り)	0.3	0.3	0.5	0.0	0.9	0.7	1.6	1.2
真空パックのとうもろこし	0.2	0.2	0.0	0.0	1.3	1.4	1.6	0.0
冷凍グリーンアスパラ	0.2	0.1	0.5	0.0	1.3	1.6	1.1	0.0
冷凍たまねぎのみじん切り	0.2	0.1	<b>1.1</b>	0.0	1.2	1.2	1.1	1.2
冷凍にんじん	0.2	0.1	0.0	0.6	0.7	0.4	2.2	0.6
洋風の煮物/グリル用の野菜セット	0.2	0.2	0.5	0.0	0.4	0.2	0.5	1.2
鍋物用のカット野菜セット(肉等とのセットは除く)	0.2	0.2	0.5	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0
山菜の乾物(わらび、ぜんまい等)	0.1	0.1	0.0	0.0	2.6	3.0	1.6	1.9
冷凍の山芋・長芋のどろろ	0.1	0.0	0.5	0.0	1.0	1.0	1.6	0.6
冷凍ニンニクの芽	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	1.1	0.0
その他の加工野菜	<b>1.0</b>	<b>1.1</b>	<b>1.1</b>	0.6	2.7	2.8	3.3	1.9

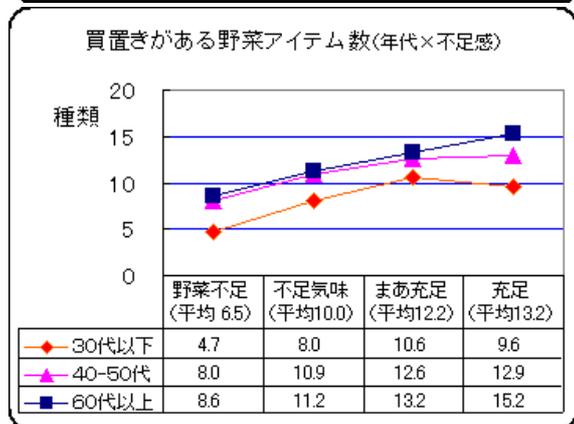
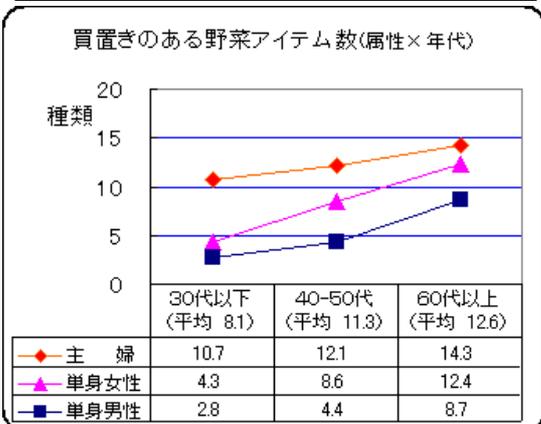
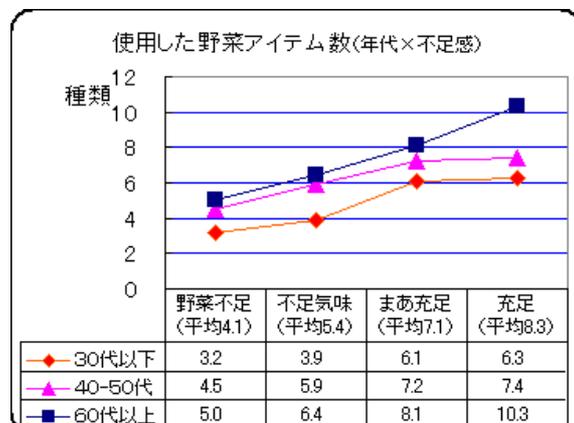
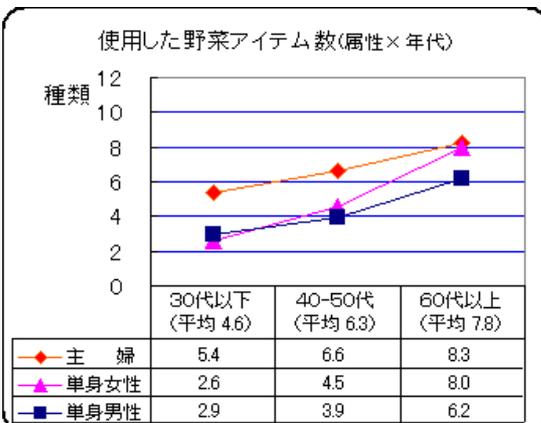
※使用した人(TOTAL)の度数でソートしている。

## 12-2. 使用した野菜、買置きのある生鮮野菜のアイテム数は？

1 日の調理に使用した生鮮野菜の種類をカウントすると、年代が高いほど種類は多くなり、30代以下と60代以上では3種類程度の差が出ている。なお、主婦の平均は 6.6 種類、単身者では4.7～4.8種類である。また、“野菜の不足感”との関係を見ると、「野菜不足だと思う」人の平均は 4.1 種類で、「野菜不足ではないと思う」人の平均 8.3 種類の半数となっている。

同様に買置きがある生鮮野菜の種類も年代が高いほど種類が多くなり、単身者では特にその差が大きくなっている。なお、主婦の平均は 12.1 種類、単身者は女性で 7.6 種類、男性で 6.4 種類である。また、“野菜の不足感”との関係でも、「野菜不足だと思う」人の平均は 6.5 種類で、「野菜不足ではないと思う」人の平均 13.2 種類の半数となっている。

野菜が不足していると思う理由に「食べる野菜の種類が少ないから」を挙げた人は 47.4%、「野菜を買うと結局余らせてしまうから／無駄になるから」を挙げた人は 30.6%となっており、調理に使用した野菜や買置きのある野菜のアイテム数でもそれを裏付ける結果となった。



### 13. 野菜を栽培している？

販売目的を除いて、野菜の栽培状況を聞いたところ、全体の 37.5%が何らかの形で野菜を栽培していることがわかった。家庭(自分)で食べる目的で野菜を栽培している人は、主婦で 43.3%、単身女性 29.6%・単身男性 16.4%となっている。

栽培している方法は、「プランターで栽培」(20.4%)、「家庭菜園(自宅・実家の庭や畑)で栽培」(19.1%)がほぼ並んでおり、「知り合いから畑を借りたり、市民農園を借りたりして栽培」は 1.8%となっている。(栽培方法は重複回答あり)

栽培を始めた時期を見ると、「今年(2009年)になってから」が 22.6%、「昨年(2008年)から」が 13.2%、「2007年以前から」が 64.2%となっており、特に「30代以下」では昨年・今年から始めた人が半数を超えている。

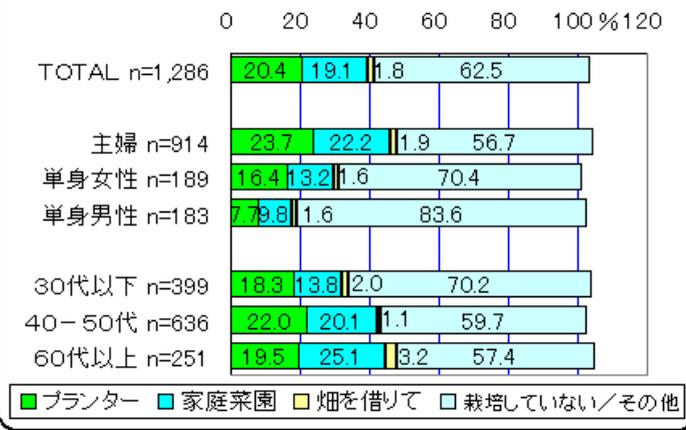
野菜の栽培を始めた理由(栽培している理由)は、「新鮮な野菜が食べられるから」が 59.0%で一番多く、次いで「自分が作った野菜は安心だから」(49.7%)、「食費の節約になるから」(40.2%)が続く、野菜そのものの評価や経済的な効果を挙げた人が多い。

年代別に見ると、「60代以上」では「新鮮な野菜」(74.1%)・「自分で作ると安心」(52.8%)など野菜そのものを評価する理由に次いで、「土いじりが好き」(43.5%)・「健康に良い」(40.7%)・「自然と触れ合える」(35.2%)が続く、これら農作業の効能に関する理由が「食費の節約」(26.9%)を上回っている。

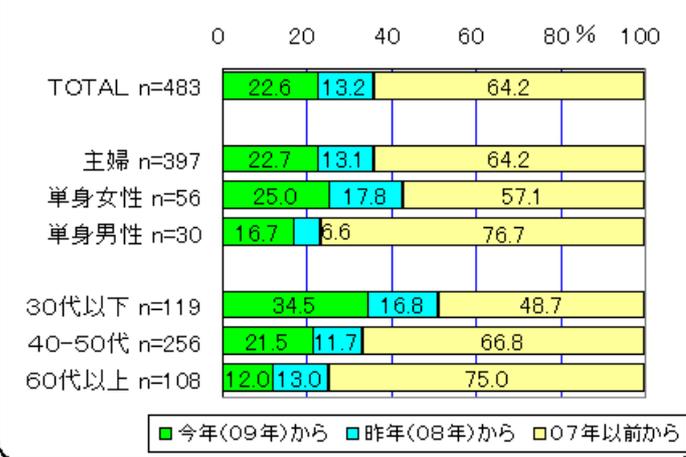
「30代以下」では「食費の節約」(52.1%)が、「新鮮な野菜」(49.6%)・「自分で作ると安心」(44.5%)を僅差ながら上回り、一番の理由となっている。一方「子供の教育に良い」(33.6%)も理由の4番目となっており、「自然との触れ合い」(29.4%)も含めて野菜の栽培を通じた食農教育の効果も期待されている。「40-50代」は、「30代以下」と「60代以上」のほぼ中間となっている。

なお、件数は多くないものの、「その他」の内訳(自由回答)で「緑のカーテンとして栽培」との回答も3件あり、省エネ・エコ目的も理由の一つとなっている。

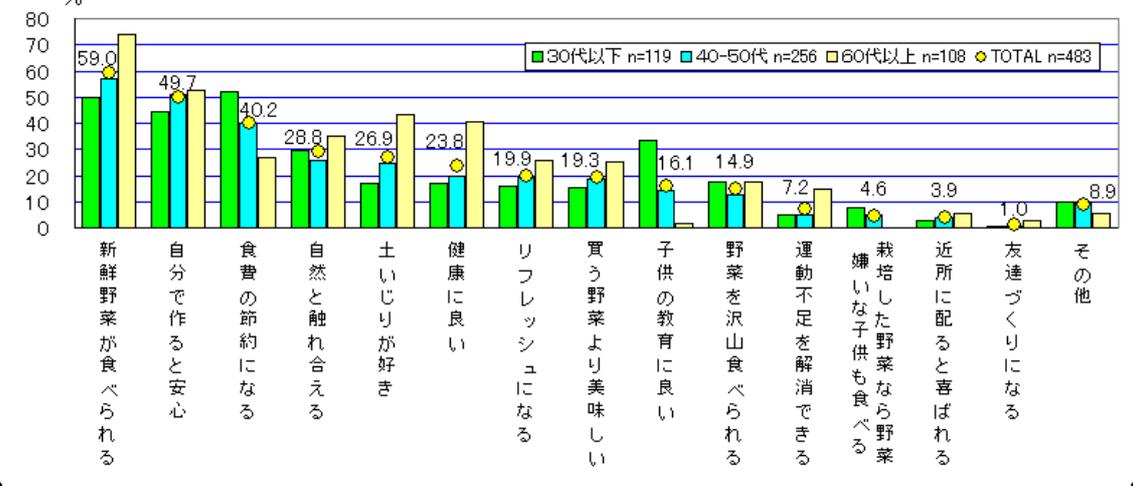
野菜の栽培状況(n=全員)



栽培を始めた時期(n=野菜を栽培している人)



野菜栽培を始めた理由(続けている理由)(n=野菜を栽培している人)



## 14. 企業が生産する野菜に対する見方は？

大手小売企業や外食企業が、農業生産法人等を立ち上げて自ら野菜の生産に取り組む事例が増えている。これらの企業が生産する野菜<sup>(注)</sup>に対する見方(8項目)を提示し、回答者が持っているイメージや考えにどの程度近いかを5段階に分けて聞いた。

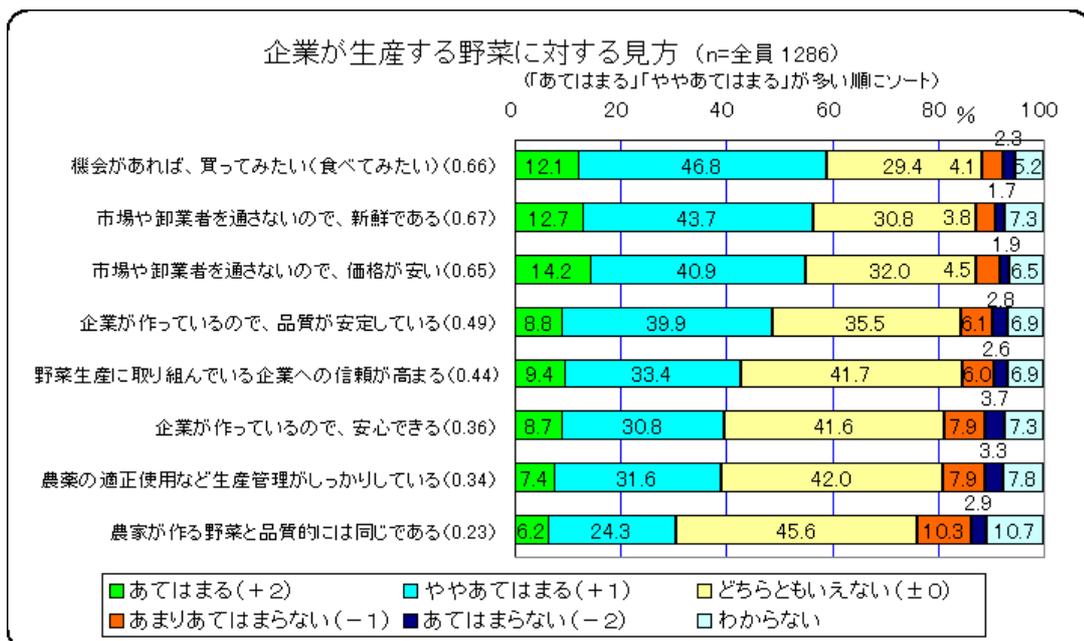
肯定的な回答(「あてはまる」「ややあてはまる」)が一番多かった項目は「機会があれば、買ってみたい(食べてみたい)」で、58.9%が肯定している。

次いで「市場や卸業者を通さないので、新鮮である」「(同様に)価格が安い」で、それぞれ56.4%・55.1%が肯定的な考えを示している。企業が生産する野菜に対して、野菜の購入時の重視点「新鮮であること」「販売単価が安いものであること」に合致したイメージを持っている人が多いと言えよう。

また、「企業が作っているので、品質が安定している」「(同様に)安心できる」「農薬の適正使用など生産管理がしっかりしている」も4割前後が肯定的な考えを示しており、否定的な考えの人(「あまりあてはまらない」「あてはまらない」)は1割前後にとどまる。企業が作る野菜は、農家等が作る野菜とは品質や生産管理に違いがあるイメージが持たれている。

結果として、「野菜生産に取り組んでいる企業への信頼が高まる」を42.8%が肯定しており、野菜の生産が企業イメージや信頼性の向上に寄与する可能性は高いものと思われる。

注) 植物工場ではなく、露地・ハウス栽培など通常の生産方法で栽培した野菜について質問した。



※ ( )内の数値は、「あてはまる」～「あてはまらない」を点数化した平均スコア

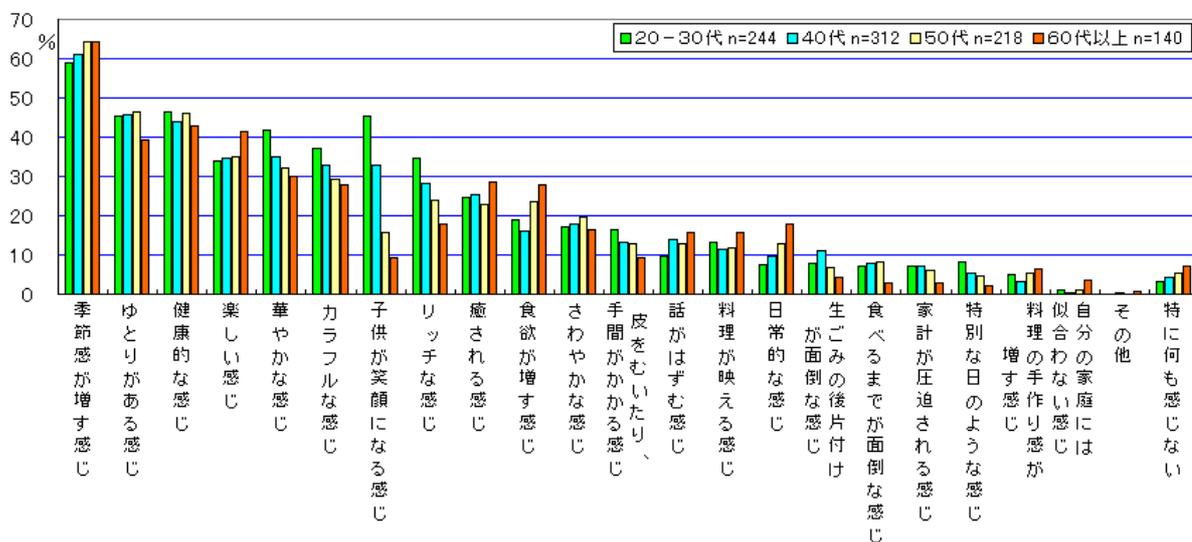
## 15. 食卓に果物がある風景に対するイメージは？（主婦のみ）

食卓に果物がある風景に対するイメージを主婦に聞いたところ、「季節感が増す感じ」（61.8%）が最多で、次いで「ゆとりがある感じ」「健康的な感じ」（同率 44.9%）が続き、上位には“楽しい”“華やか”“カラフル”等のイメージが並んでいる。20-30代では「子供が笑顔になる感じ」も45.5%と、3番目にランクしている。

一方で、「皮をむいたり、カットしたり手間がかかる感じ」「生ごみの後片付けが面倒な感じ」「食べるのが面倒な感じ」を受ける人は7.0~13.3%、中には「家計が圧迫される感じ」を持つ人も6.1%いる。

総じて、果物がある風景にプラスイメージを持つ人が多く、内食回帰が進む中、果物がある食卓を家族で囲む光景を想起してもらうことも、果物を「もう少し(もっと)食べたい」気持ちを消費行動につなげるには有効であろう。

食卓に果物がある風景に対するイメージ(主婦 n=914)



年代	季節感が増す感じ	ゆとりがある感じ	健康的な感じ	楽しい感じ	華やかな感じ	カラフルな感じ	子供が笑顔になる感じ	リッチな感じ	癒される感じ	食欲が増す感じ	さわやかな感じ	手間がかかる感じ、皮をむいたり、	話がはずむ感じ	料理が映える感じ	日常的な感じ	生ごみの後片付けが面倒な感じ	食べるまでが面倒な感じ	家計が圧迫される感じ	特別な日のような感じ	料理の手作り感が	似合わない感じは	自分の家庭には	その他	特に何も感じない
20-30代	59.0	45.5	46.3	34.0	41.8	37.3	45.5	34.8	24.6	18.9	17.2	16.4	9.8	13.1	7.4	7.8	7.0	7.0	8.2	4.9	1.2	0.0	0.0	3.3
40代	61.2	45.8	43.9	34.6	34.9	33.0	33.0	29.2	25.3	16.0	17.9	13.1	14.1	11.5	9.6	11.2	8.0	7.1	5.4	3.2	0.3	0.3	0.3	4.2
50代	64.2	46.3	45.9	34.9	32.1	29.4	15.6	23.9	22.9	23.4	19.7	12.8	12.8	11.9	12.8	6.9	8.3	6.0	4.6	5.5	0.9	0.0	0.0	5.5
60代以上	64.3	39.3	42.9	41.4	30.0	27.9	9.3	17.9	28.6	27.9	16.4	9.3	15.7	15.7	17.9	4.3	2.9	2.9	2.1	6.4	3.6	0.7	0.7	7.1
TOTAL	61.8	44.9	44.9	35.6	35.3	32.5	28.6	27.4	25.1	20.4	17.9	13.3	12.9	12.7	11.1	8.2	7.0	6.1	5.5	4.7	1.2	0.2	0.2	4.7

---

## 野菜・果物の消費行動に関する調査結果～2009年調査～

---

発行 2009年10月

編集製作 社団法人 JA総合研究所

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋二丁目4番3号 光文恒産ビル7階



# 社団法人 JA総合研究所

---

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-3 光文恒産ビル7階

Tel 03-5214-0811 Fax 03-3222-0002

URL <http://www.ja-so-ken.or.jp>